

令和4年度第1回紀南地域高等学校活性化推進協議会

配 付 資 料

- 令和4年度紀南地域高等学校活性化推進協議会委員名簿・・・・・・・・・・ P 1
- 紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱・・・・・・・・・・ P 2
- 【資料1】 令和3年度第2回
紀南地域高等学校活性化推進協議会の概要・・・・・・・・・・ P 3
- 【資料2】 木本高校・紀南高校卒業者の進路状況・・・・・・・・・・ P 5
- 【資料3】 木本高等学校の活性化にかかる主な取組について・・・・・・・・ P 9
- 【資料4】 紀南高校新活性化プラン・・・・・・・・・・ P 11
- 【資料5】 木本高校・紀南高校の部活動の状況・・・・・・・・・・ P 14
- 【資料6】 東紀州地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）・・・・ P 15
- 【資料7】 熊野市・南牟婁郡中学校卒業生数（予測）と
木本・紀南両高等学校への入学者数・・・・・・・・・・ P 16
- 【資料8】 東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数・・・・ P 17
- 【資料9】 令和4年度の協議について・・・・・・・・・・ P 20
- 【資料10】 令和2～3年度協議会での主な意見・・・・・・・・・・ P 22
- 【資料11】 紀南地域の設置学科と学級数の推移・・・・・・・・・・ P 26
- 【資料12】 学校規模による教育環境の比較・・・・・・・・・・ P 27
- 【資料13】 県立高等学校生徒を対象としたアンケート結果（抜粋）・・・・ P 29
- 【参考資料】 紀南高等学校 活性化取組の総括的な検証について（R3）・・・・ P 37

令和4年度 紀南地域高等学校活性化推進協議会 委員名簿

No		所属及び名前	
1	学識経験者	三重大学教育学部 教授 平山 大輔	継続
2	地域有識者	熊野商工会議所 青年部幹事 森本 健一	継続
3		文恵丸水産 代表 長山 行文	継続
4		紀宝町商工会 会長 田尾 友児	継続
5	市町教育委員会	熊野市教育委員会 教育長 倉本 勝也	継続
6		御浜町教育委員会 教育長 辻本 誠一	継続
7		紀宝町教育委員会 教育長 西 章	継続
8	小中学校PTA代表	紀南PTA連合会 会長 高垣 裕人	継続
9		紀南PTA連合会 進路研究委員長 倉本 崇弘	新
10	高等学校PTA代表	県立木本高等学校PTA 会長 道前 涼太	継続
11		県立紀南高等学校PTA 会長 中嶋 悦雄	新
12	同窓会・地域代表	県立木本高等学校同窓会 会長 森岡 忠雄	継続
13		県立紀南高等学校学校運営協議会 会長 廣畑 勝也	継続
14	小中学校長代表	熊野市立木本小学校 校長 川崎 奈保美	新
15		御浜町立尾呂志学園中学校 校長 高田 有治	継続
16	小中学校教員代表	熊野市立金山小学校 教諭 久保 範顕	継続
17		御浜町立御浜中学校 教諭 大崎 重久	継続
18	県立高等学校長	県立木本高等学校 校長 松本 徳一	継続
19		県立紀南高等学校 校長 堀越 英範	新
20	県立高等学校教員代表	県立木本高等学校 教諭 寺前 淑湖	継続

紀南地域高等学校活性化推進協議会設置要綱

(設 置)

第1条 少子化などの社会の変化が著しい中、紀南地域における高等学校の特色化、魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備するため、紀南地域高等学校活性化推進協議会（以下、「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次に掲げる事項について具体的に検討し、協議する。

- (1) 今後の紀南地域全体における県立高等学校のあり方に関する事
- (2) 紀南地域の県立高等学校活性化の方策に関する事
- (3) 施設・設備に関する事
- (4) その他検討を要する事

(組 織)

第3条 協議会は、学識経験者、地域有識者、小中学校PTA関係者、高等学校PTA関係者、関係市町教育委員会教育長、小中学校長代表、県立学校長代表、教職員代表等で組織する。

- 2 協議会に、会長、副会長を置く。
- 3 会長及び副会長は、委員の中から互選により決める。
- 4 会長は会務を総理し、副会長は会長を補佐し会長に事故ある時は職務を代行する。
- 5 協議会は、必要に応じて関係者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第4条 協議会のもとに、必要に応じて調査委員会を設置する。

- 2 調査委員会は、テーマに応じて会長の指名する関係者で構成する。

(会 議)

第5条 協議会は、会長が招集し、会長が議事運営する。

- 2 協議会の庶務は県教育委員会事務局において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関する事項は会長が定める。

附 則

この要綱は平成24年 7月18日から施行する。

この要綱は平成29年 6月12日から施行する。

令和3年度第2回紀南地域高等学校活性化推進協議会(9/22)の概要

1 日 時 令和3年9月22日(水)19時00分から21時00分まで

2 場 所 オンライン実施

3 概 要

前回に引き続き、次期「県立高等学校活性化計画」の策定に向けて、今後の中学校卒業生数の減少や当地域を取り巻く高校の現状や課題をふまえ、これからの紀南地域の県立高校のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです。

《紀南地域の高校のあり方について》

- 紀南PTA連合会では、これからの紀南地域を活性化するためには、高校の統合という問題だけにとどまらず、産業の振興による雇用の拡大等により若者を地域に定着させることを目指し、SDGsの視点を持って、小中学校、商工会、行政等が協力・連携して地域全体の活性化を図っていくべきであると考えている。
- 今後の地域の中学校卒業生の減少を考慮に入れば、2校の統合もやむを得ないと考えるが、生徒のことを考えると、高校進学時に選択肢がある方が望ましい。たとえば2校で校舎制を採用し、土日だけでも合同で部活動をしたり、両校舎の教員が協力して学校運営にあたったりすれば、統合しても子どもたちに選択肢を残せるのではないか。
- 小規模化が進めばそれぞれの高校に配置できる教員数が少なくなり、それだけ学校運営は難しくなるため、少子化が進む現状から考えると両校を統合していくことは致し方ない。
- 今後の中学校卒業生数の推移から考えれば両校の統合はやむを得ないが、通学について考えると、広い紀南地域全体を考えた最適な配置を決めるのは難しい。ICTを最大限に活用した遠隔授業による学びの保障についても検討するべきではないか。
- 平成28年度の当協議会の中で、両校の統合に向けて熊野市と紀宝町の間付近の高台に新校舎建設の議論もあったが、県教育委員会からは県財政逼迫の中で現実的に難しいとの見解が示された。この状況は現在でも変わらないのか。
⇒(事務局)現在でも県の財政状況が苦しいことに変わりはない。両校を統合する場合は現在の県施設を活用していく方向である。
- 木本高校が5学級規模を下回るころから、紀宝町では、大学進学をめざす生徒が、自転車でも通学できる近大新宮高校に進学する傾向が強まったように思う。今後さらに少子化が進む中で、生徒や保護者のニーズに対応していくためには、この紀南地域の県立高校2校だけでなく、新宮市内の高校も含めて生徒に幅広い選択肢を提供する視点で考えていいのではないか。

- 地域では子育てしやすい環境が重要となるため、近くに通える高校があることが望ましい。他県の分校や校舎制等の事例も参考にしながら、この地域で2校舎を存続していく方策も検討できないか。また、今後の協議の方法については、県教育委員会から協議のたたき台となるものを示して進めてもらいたい。
⇒（事務局）結論ありきの議論にならないよう、たとえばいくつかのパターンのメリット・デメリットを示したり、課題を提示したりするなど、考えられる論点を整理することで今後の協議をスムーズに進めるようにしていきたい。
- 紀南高校は、これまで地域と一緒に活性化に一生懸命に取り組んできた。地域にとっても高校の存在は大きく、その存続を望んでいる。もし2校が統合となった場合には、地域の子どもたちにより実社会で役立つ教育をしてもらいたいし、通学に関しては、たとえばスクールバスの支援等も検討してもらいたい。
- 地域の衰退をとどめるためにも学校は必要であり、子どもたちが紀南地域の高校を選択して、地域に残ることが地域の活性化にもつながると考える。また、令和7年度に5学級規模の学校をつくる時は、現在の紀南高校普通科、木本高校普通科、総合学科の枠組みを再考して学科を配置してもらいたい。
- 2校のあり方については、想定されるいくつかのパターンを全体で共有し、よりベターなものを検討していくしかない。今後も小規模化が進む中、木本高校は大学進学をはじめ、地域の高校として生徒や地域のニーズに応えるとともに、生徒の自己実現を目標に取り組を進めていかなければならない。
- 紀南地域は都会と比べて人口が少なく、子どもたちにとって他人とのコミュニケーションをとる機会も少なくなるため、一定規模の集団生活を通じて多くの経験をさせてやりたいが、本人や保護者の負担を考えると近くの学校への通学が可能な2つの校舎で学べる体制にもメリットを感じる。
- 令和7年度に5学級規模となる高校の姿は、現実的には木本5学級—紀南0学級、木本4学級—紀南1学級、木本3学級—紀南2学級が考えられるが、果たして1学級規模の学習環境で本当にこれからの時代を生きる子どもたちに必要な教育を提供できるのか、もっと真剣に検討していく必要がある。
- 将来2校の統合については仕方がないことと考えており、保護者の立場からは、子どもが十分に教育を受ける体制や学習環境を整備していくことが何よりも大切と考える。

木本高校・紀南高校卒業者の進路状況

資料2①

1 a 木本高校普通科

卒業年度	卒業者数		四年制大学		短期大学等	専修学校	各種学校	就職			その他	看護大 高看 准看	
			人数	うち 国公立				東紀州地域 (含近隣県外)	県内 他地域	県外 (除近隣県外)			
令和3年度	119	人数	73	(14)	8	31	1	5	(4)	(0)	(1)	1	(18)
		(%)	61.3	(11.8)	6.7	26.1	0.8	4.2	(3.4)	(0.0)	(0.8)	0.8	(15.1)
令和2年度	110	人数	65	(11)	6	33	3	3	(1)	(1)	(1)	0	(17)
		(%)	59.1	(10.0)	5.5	30.0	2.7	2.7	(0.9)	(0.9)	(0.9)	0.0	(15.5)
令和元年度	114	人数	70	(20)	8	22	2	10	(3)	(1)	(6)	2	(17)
		(%)	61.4	(17.5)	7.0	19.3	1.8	8.8	(2.6)	(0.9)	(5.3)	1.8	(14.9)
平成30年度	120	人数	69	(20)	13	24	0	11	(5)	(3)	(3)	3	(12)
		(%)	57.5	(16.7)	10.8	20.0	0.0	9.2	(4.2)	(2.5)	(2.5)	2.5	(10.0)
平成29年度	105	人数	65	(16)	3	24	2	8	(2)	(1)	(5)	3	(17)
		(%)	61.9	(15.2)	2.9	22.9	1.9	7.6	(1.9)	(1.0)	(4.8)	2.9	(16.2)

1 b 木本高校総合学科

卒業年度	卒業者数		四年制大学		短期大学等	専修学校	各種学校	就職			その他	看護大 高看 准看	
			人数	うち 国公立				東紀州地域 (含近隣県外)	県内 他地域	県外 (除近隣県外)			
令和3年度	80	人数	19	(0)	12	28	0	14	(4)	(3)	(7)	7	(10)
		(%)	23.8	(0.0)	15.0	35.0	0.0	17.5	(5.0)	(3.8)	(8.8)	8.8	(12.5)
令和2年度	78	人数	11	(0)	9	34	0	23	(6)	(6)	(11)	1	(9)
		(%)	14.1	(0.0)	11.5	43.6	0.0	29.5	(7.7)	(7.7)	(14.1)	1.3	(11.5)
令和元年度	76	人数	7	(0)	5	33	1	28	(3)	(5)	(20)	2	(4)
		(%)	9.2	(0.0)	6.6	43.4	1.3	36.8	(3.9)	(6.6)	(26.3)	2.6	(5.3)
平成30年度	80	人数	19	(0)	1	32	0	24	(7)	(10)	(7)	4	(9)
		(%)	23.8	(0.0)	1.3	40.0	0.0	30.0	8.8	12.5	8.8	5.0	(11.3)
平成29年度	80	人数	21	(0)	6	22	3	26	(12)	(2)	(12)	2	(5)
		(%)	26.3	(0.0)	7.5	27.5	3.8	32.5	(15.0)	(2.5)	(15.0)	2.5	(6.3)

2 紀南高校

卒業年度	卒業者数		四年制大学		短期大学等	専修学校	各種学校	就職			その他	看護大 高看 准看	
			人数	うち 国公立				東紀州地域 (含近隣県外)	県内 他地域	県外 (除近隣県外)			
令和3年度	51	人数	1	(0)	4	16	0	27	(15)	(4)	(8)	3	(4)
		(%)	2.0	0.0	7.8	31.4	0.0	52.9	29.4	7.8	15.7	5.9	(7.8)
令和2年度	75	人数	1	(0)	7	15	0	45	(18)	(14)	(13)	7	(4)
		(%)	1.3	0.0	9.3	20.0	0.0	60.0	24.0	18.7	17.3	9.3	(5.3)
令和元年度	93	人数	7	(0)	13	22	0	44	(19)	(10)	(15)	7	(7)
		(%)	7.5	(0.0)	14.0	23.7	0.0	47.3	(20.4)	(10.8)	(16.1)	7.5	(7.5)
平成30年度	103	人数	7	(1)	5	29	0	58	(14)	(13)	(31)	4	(10)
		(%)	6.8	(1.0)	4.9	28.2	0.0	56.3	(13.6)	(12.6)	(30.1)	3.9	(9.7)
平成29年度	96	人数	6	(0)	7	29	0	48	(20)	(9)	(19)	6	(11)
		(%)	6.3	(0.0)	7.3	30.2	0.0	50.0	(20.8)	(9.4)	(19.8)	6.3	(11.5)

注) 「短期大学等」の等は高等専門学校への編入を含む。「各種学校」は、大学等への進学のための「予備校」。
 就職の「東紀州地域」には、新宮市等の近隣県外地域を含む。
 「その他」には、「公共職業能力開発施設等入学者」、「一時的な仕事に就いた者」のほか、未定者等も含む。

進路合格・内定先一覧(木本高校)

資料2 ②

大学	R2	R3		
(国) 愛媛大学	1	1	東京薬科大学	1
(国) 岡山大学	1		日本赤十字豊田看護大学	1
(国) 東京海洋大学	1		日本福祉大学	2
(国) 東北大学	1		人間環境大学	1
(国) 徳島大学	1	1	広島国際大学	1
(国) 大阪大学		2	藤田医科大学	1
(国) 名古屋工業大学	1		武庫川女子大学	1
(国) 広島大学	1	1	名城大学	5
(国) 福井大学	1		桃山学院大学	1
(国) 三重大学	2	5	大和大学	1
(公) 三重県立看護大学		1	四日市大学	1
(公) 横浜市立大学	1	1	四日市看護医療大学	1
(公) 兵庫県立大学		1	立命館大学	6
(公) 大阪公立大学		1	龍谷大学	6
愛知大学		2	計	111 92
愛知学院大学	1	4	短期大学	R2 R3
愛知工業大学	1		津市立三重短期大学	2 7
愛知東宝大学		1	愛知学泉短期大学	1
藍野大学	1		愛知文教女子短期大学	1
青山学院大学	2		大阪城南女子短期大学	1
大阪大谷大学	1		大阪成蹊短期大学	1
大阪経済大学		2	大阪芸術大短大	1
大阪商業大学		1	大阪夕陽丘学園短期大学	1
大阪体育大学		1	関西外国語大学短期大学部	1
大阪医科薬科大学		1	関西女子短期大学	1
大阪保健医療大学	1		修文大学短期大学部	1
帝塚山大学		1	高田短期大学	2 5
大谷大学	1		豊橋創造大学短期大学部	1
大手前大学	1		名古屋短期大学	2
岡山理科大学	1		平成医療短期大学	2
関西大学	1		奈良芸術短期大学	2
関西外国語大学	1	1	龍谷大短期大学部	1
関西学院大学	1		産業技術短期大学	1
京都産業大学	2	4	武庫川女子大学短期大学部	1
京都女子大学	1	1	計	15 20
京都芸術大学		1	専修学校(看護・準看)	R2 R3
京都精華大学	1		国立三重中央看護	3 3
京都橘大学	1		和歌山県立なぎ看護	4 6
近畿大学	1		愛知県厚生連加茂看護	1 1
金城学院大学	1		愛知県厚生連更生看護	1 1
工学院大学	1		岡波看護	1 2
皇學館大学	8	9	京都中央看護保健大学校	1
神戸学院大学	1		桑名医師会看護	1
明治大学		1	新宮市医師会准看護学院	1
駒澤大学	2		聖十字看護	4 2
駒沢女子大学	1		桑名医師会立桑名看護専門学校	2
至学館大学	1		津看護	2
四国大学	1		松阪看護	2
自治医科大学	1		三重看護	2 2
鈴鹿医療科学大学	10	10	ユマニテク看護助産	2 1
成城大学	1		計	25 20
摂南大学	2		専修学校	R2 R3
追手門学院大学		1	公衆衛生学院	2
大同大学	3	1	AWS動物病院	1
中京大学	2	1	あいち造形デザイン	1
帝塚山大学	3		あいちビジネス	4
東海大学		1	あいち福祉医療	1
東海学園大学	3		愛知ペット	2
同志社女子大学	1		旭理容美容	1 1
同志社大学	2		伊勢志摩リハビリテーション	1
同朋大学	2	1	伊勢保健衛生	3
名古屋音楽大学	1		ヴェールルージュ美容	1
名古屋外国語大学	5	4	大阪医専	1
名古屋学院大学	1	5	大阪工業技術	1
名古屋学芸大学	1		大阪ECO海洋動物	1
修文大学		2	大阪情報コンピュータ	3
岐阜聖徳学園		1	大阪ホテル	1
南山大学	1		大原法律公務員 津校	1 2
			大原簿記情報医療	2

京都外国語	1	
高津理容美容	1	
国際医学技術	1	3
セントラルトリミングアカデミー	1	1
中部美容		1
中部リハビリテーション		1
東海医療科学	1	4
東海医療技術		1
東海医療工学	1	
東海工業 金山校	1	
東京IT会計 名古屋校	2	
東京ECO海洋動物		1
東京法律名古屋校		2
ホンダテクニカルカレッジ関西	1	
トヨタ名古屋自動車大学校		1
トライデントコンピュータ		1
名古屋医健スポーツ	1	1
名古屋医療情報		1
名古屋医療秘書福祉	2	
名古屋工学院	2	1
名古屋歯科医療	1	
名古屋情報メディア	2	
名古屋スクールオブミュージック&ダンス	1	
名古屋ユマニテック歯科製菓	1	
名古屋動物		1
名古屋リゾート&スポーツ	1	
HAL名古屋		1
国際観光		1
東邦学園		1
日本外国語	1	
日本工学院八王子	1	
日本コンピューター学院		1
日本デザイナー芸術学院	1	1
サンビレッジ国際医療福祉		1
ミエ・ヘア・アーティストアカデミー		1
ユマニテック医療福祉大学校		1
米田柔整		1
計	44	39

各種学校	R2	R3
四谷学院		1
計	0	1

就職（公務員）	R2	R3
紀宝町役場	1	
御浜町役場		1
熊野消防	1	1
陸上自衛隊		1
陸上自衛隊一般曹候補生		1
自衛官候補生	1	
計	3	4

就職（東紀州地域）	R2	R3
SWS西日本(株)	1	
熊野精工(株)	1	2
ユウテック(株)		1
浦島観光ホテル(株)		1
尾崎畜産御浜ファーム(株)		1
日本郵便(株)東海支社		1
計	2	6

就職（県内他地域）	R2	R3
伊賀リハビリライフサポート株式会社	1	
(株)エクセディ	1	
長島観光開発株式会社	1	
株式会社ナガシマゴルフ	1	
日東電工株式会社亀山事業所	1	
ニプロファーマ(株)	1	2
株式会社百五銀行	1	
計	7	2

就職（県外）	R2	R3
イオンリテール(株)東海名古屋事務所		1
太田商事株式会社	1	
株式会社グリーンズ	1	
黒崎播磨株式会社名古屋支店		1
株式会社興和工業所	1	
下野塗装店	1	
株式会社J-POWERハイテック		1
大昌総業株式会社	1	
大同テクニカ株式会社		1
ダイハツ工業株式会社	1	1
地建興業株式会社	1	
株式会社デンソー		1
東海旅客鉄道株式会社	1	1
西日本旅客鉄道株式会社	1	
株式会社にし家	1	
日建株式会社	2	
富士岐工産株式会社名古屋支店	1	
有限会社フリースタイル	1	
計	14	7

進路合格・内定先一覧(紀南高校)

大学	R2	R3	就職(東紀州地域)	R2	R3
鈴鹿医療科学大学		1	熊野精工(株)		2
宝塚医療大学	1		パナソニックライフソリューションズ紀南電工(株)	3	3
計	1	1	SWS西日本(株)	1	1
短期大学	R2	R3	日本郵便(株)東海支社	1	1
(公)三重短期大学	2	3	特別養護老人ホームたちばな園	1	
高田短期大学	2		(株)ケイオープラン	3	
愛知文教女子短期大学	1	1	伊勢農業協同組合	1	
大阪芸術大学短期大学部		1	新宮信用金庫	1	
豊岡短期大学	1		(株)フジデン	1	
和歌山信愛女子短期大学	1		ユウテック(株)	1	1
計	7	5	岩田電気(有)	1	
専修学校(看護・准看)	R2	R3	有限会社紀南石油販売所	1	1
(公)和歌山県立なぎ看護学校	1	1	紀南病院組合きなん苑	1	1
新宮市医師会准看護学院	1	1	三重交通商事(株)		1
関西看護専門学校	1		(株)主婦の店		1
津看護学校	1	1	(有)熊野養魚		1
桑名医師会立桑名看護専門学校		1	計	17	13
計	4	4	就職(県内他地域)	R2	R3
専修学校	R2	R3	(株)エクセディ上野事業所	5	1
旭美容専門学校		1	社会福祉法人あけあい会	1	
東海医療技術専門学校	1		長島観光開発(株)	1	
阪奈中央リハビリテーション専門学校	1		ホテル季の座	1	
近畿コンピュータ電子専門学校	1		日本梱包運輸倉庫(株)	1	
和歌山コンピュータビジネス専門学校	1		中日本ビルテクノサービス(株)	1	
東海工業専門学校金山校	1		マルアイユニティー(株)亀山事業所	1	
名古屋調理師専門学校	1		(株)キナン	1	
広島酔心調理製菓専門学校	1		(株)ホンダ四輪販売三重北	1	1
大阪ビューティアーアート専門学校	1		ニプロファーマ(株)伊勢工場		1
関西美容専門学校	1		計	13	3
アミューズメディア総合学院	1		就職(県外)	R2	R3
京都芸術デザイン専門学校	1		日鉄物流名古屋(株)		1
大原簿記法律専門学校		1	大同テクニカ(株)		1
中和医療専門学校		1	フジパン(株)	1	
平成リハビリテーション専門学校	1		ユニチカ(株)岡崎事業所	1	
ルネス紅葉スポーツ柔整専門学校	1		日鉄テックスエンジ(株)名古屋支社	1	
静岡工科自動車大学校		1	キムラユニティー(株)	1	
三重県立津高等技術専門学校		2	(株)コジマプラスチック	1	
京都製菓製パン技術専門学校		1	由良アイテック(株)	1	
アフロートスクール 梅田校		1	(株)ヨシツヤストア	1	
中日美容専門学校		1	太田商事(株)	1	
大阪社体スポーツ専門学校		1	(株)菅原設備	1	
計	11	12	(医)並木会並木病院	1	
就職(公務員)	R2	R3	(株)エフベーカーリーコーポレーション	2	
陸上自衛隊	1		(株)ENEOSウイング関西支店	1	
計	1	0	トヨタ車体(株)		1
			(株)ブランシェ		2
			(株)ワークステーション		1
			住友電工ウインテック(株)		1
			知的障害者総合福祉施設愛の家		1
			計	13	8

木本高等学校の活性化にかかる主な取組について

本校の目指す学校像として、「自分の良さを伸ばしながら、目標や夢の実現に向けて努力を続ける生徒を育成します。」と、「地域に誇りを持ち社会に役立つ人を育み、「地域に信頼される学校」をめざします。」の二つをかかげている。地域における本校の大きな役割として【地域で学んで自己実現できる学校】であることから、このことが本校の魅力化・活性化に直結するものと考えている。普通科・総合学科ともに、進学希望者の割合が増加する中で、本当に自分が目指したいものや学びたいものを早い段階から見据えて、最後まで挑戦し続ける進路指導と学習指導をさらに充実させる必要がある。

1 生徒の進路実現につながる「学力の向上」の取組

1 自主的・主体的な学習への支援

- ・自主学習力を高める支援として、外部による Web を利用した学習環境を提供している。ベネッセの「classi」を利用して、動画学習を行っている。
- ・ICTを利用した学力充実の取組を行っている。コロナ禍が続く中、登校できない状況においては、授業をネット配信して、自宅で授業を受けることができる環境を提供している。また、一人一台端末の利用により、更なる自主的・主体的な学習を支援する取組をしている。

2 学力向上と進路希望実現に向けた課外授業、補習授業、個別指導の実施

- ・進路希望実現にむけて、定期的に課外授業や補習授業を実施し、また必要に応じて個別にも対応している。

3 進路希望先決定のための個別指導、面談の実施

- ・総合的な学習の時間やLHRを使って、自分の進路について考えさせる取り組みを実施している。
- ・面談週間以外にも、随時丁寧に面談を行い、生徒は志望校に行くためにはどのような力をつけるべきかを考え、早めに対策をとることを実施している。
- ・学力検討委員会を設置し、一人ひとりの生徒の自己実現のイメージを持ちながら、教科指導について協議し、実践につなげている。

2 生徒の進路実現につながる「キャリア教育」の取組

1 進路や将来について考える機会づくり

- ・どの学年においても、1度は小論文指導を通して、生徒が自分の考えを客観的に述べる力を身につけさせるという取組を続けている。
- ・「総合的な探究の時間」において、業者（リクルート）の資料と、生徒自身が取り寄せた大学等のパンフレットをもとに、各自が目標とする学校の志望動機について、ワークシートにまとめる取組を行っている。

2 三重大学との連携強化

- ・三重大学東紀州サテライト学舎を通じて、三重大学との連携に取り組んでいる。
 - オンラインによる三重大学説明会
 - 三重大学東紀州サテライト学舎見学および、三重大学教員による講義を受講
 - 三重大学教員のサポートを受け、本校生による小学校への出前授業(英語・体育)

3 「生徒活動のPR・地域への情報発信」の取組

1 中学生と保護者対象の進学説明会

- ・大学進学を目指して本校を志望する中学生とその保護者を対象に行っている。

2 地域での取組

- ・奉仕活動として、七里御浜の清掃、熊野古道の清掃、近隣河川の清掃を行っている。

4 「総合的な探究の時間」・「産業社会と人間」における取組

1 1年生を中心とした新しい取組

地域や連携企業の人たちと交流を持ちながら、多様な価値観や考え方に触れ、自己の在り方・生き方を主体的に考え、自分の人生や将来、職業について考えることを狙いとして、以下の取組を計画している。

- ・「地域を学び場としたPBL活動の推進」
(県教育委員会 オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学びの推進事業)
- ・STEAMライブラリ活用実証・事業者連携
(経済産業省)

※※PBL・・・Project Based Learning 問題解決型学習

生徒が自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身に付ける学習方法

※※STEAMライブラリ・・・

経済産業省が、子どもたちが「未来社会の創り手」に育つきっかけを提供すべく、産業界や研究機関等と連携して学際的で探究的な学習のための多様なデジタルコンテンツを開発し、STEAMライブラリとして無料公開している。

紀南高校新活性化プラン

令和 4 年 5 月

<活性化の方向性 1>

生徒が地域の一員として役立つことを実感し、自己肯定感・有用感を高め、積極的にコミュニケーションを図ることができるよう能力を育成するとともに、地域への理解を深め、地域への愛着を育むことができるよう、地域を学びの場とした学習を体系的に推進します

- 1 学校設定科目「地域産業とみかん」・「東紀州学」・「地域創造学（令和 4 年度入学生から）」等、地域を学びの場とした探究的な活動を主たる目的とした教育課程の充実【改善】
 - ・「地域産業とみかん」「東紀州学」については、生徒の課題解決能力の向上を目指し、教育課程において類型（コース制）を充実させ、地域を学びの場とした学習の 1 つとして体系化し、探究的な活動の深化を図っていく。
 - ・「地域創造学」については、令和 4 年度入学生から「地域産業とみかん」と「東紀州学」を統合してリニューアルし、東紀州地域の産業や福祉、防災・減災、少子高齢化などの地域課題を解決したり、地域資源を活かしたりして行う地域の未来づくりをテーマにした探究活動をとおして、地域で活躍できる人材の育成を図る。
- 2 学校設定科目「就労体験」の一層の充実【改善】
 - ・「就労体験」を継続し、働くことの大切さ、自分の将来と地域との関わりを学ぶ機会を充実させる。生徒がその意義を再認識する意味でも小中学校の「職場体験学習」等との連携を図るとともに、地元行政や地域産業界との連携のもと、地域での発表機会を創出するなど、生徒が取組を報告する機会をさらに増やしていく。
- 3 SBP 活動の展開について検討・実施【改善】
 - ・SBP 活動の展開について、生徒の意欲を引き出しつつ、生徒及び教員に過重な負担が生じないように調整しながら検討していく。
 - ・地域への愛着を育み、地域への協力と体験学習を兼ねた活動を展開できるよう、地域イベント等の情報を収集して情報提供や募集を行うなど、多くの生徒が地域イベント等へ積極的に参加できるよう努める。

<活性化の方向性 2>

地元就職率の高い看護系への進学、地元企業をはじめとした就職など、幅広い学力層の生徒の大学・専門学校への進学希望や就職希望の実現を目指し、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導の向上を図ります

- 1 **地域医療・福祉を主体として、進学を目指すための教育課程の充実【改善】**
 - ・看護系進学希望者等の進路実現と地域のニーズを重視し、生徒が将来、地域医療や福祉に関する職業に従事できる学習環境を整えられるよう、教育課程における類型（コース制）の学びを進路実現につなげる。
- 2 **インターンシップの充実、地元商工会等と連携した企業説明会の開催【改善】**
 - ・教育課程に位置付けたインターンシップを継続・充実させ、就労意識の向上に努める。
 - ・地元商工会等と連携し、近隣の企業の魅力をPRし、地域定着の礎を築く。
- 3 **授業改善研究を積極的に行い、教員研修の機会の一層の充実【改善】**
 - ・令和元年度までの国事業（アクティブ・ラーニング研究）で得たノウハウを生かすとともに、ICTの活用や授業のユニバーサルデザイン化、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法や、観点別学習状況の評価の手法について教員のスキルアップを図る。この様な授業研究を伴う教員研修を校内体制の中で定着させることにより、90%以上の生徒が、授業内容がよくわかり、力がついたと実感できる授業実践となるよう、引き続き取り組んでいく。
 - ・「朝学習」の継続、基礎力診断テストを活用した指導を通じて、基礎学力定着・向上を目指していく。

<活性化の方向性3>

中学生が目的意識を持って、本校を志望することにつながるよう、生徒による学習成果を発表する機会を充実するとともに、進学指導や就職指導の魅力を広く地域に発信します

- 1 **紙媒体、SNS、説明会等での効果的なPR【PR】**
 - ・紀南高校の活動を中学生、保護者、地域の方々へ浸透させていくため、引き続き紙媒体、SNS、説明会、生徒による学習成果等の発表等々さまざまな形での情報提供を継続していく。
- 2 **「きなん俳句コンクール」等小中学生を対象とした企画の実施【PR】**
 - ・地元小中学生を対象とした「きなん俳句コンクール」を実施し、義務教育段階での学習に寄与するとともに高校の魅力発信につなげる。
- 3 **生徒が学習成果を発表する機会の拡大【改善】**
 - ・PBL（地域課題解決型キャリア教育にかかわる学び）発表会を実施し、学習成果を広く発信する。
- 4 **防災教育の充実【改善】**
 - ・大学や自治体等が実施する防災シンポジウム等での発表、地元小中学校での発表等を通して、生徒の学習・活動の成果を発信し、啓発活動の機会を充実する。
- 5 **「まごターン入学」のSNS、広報誌等を活用したPR【改善】**
 - ・県外からの入学者の受け入れを認める入試制度を積極的に活用し、県外からの受検生の拡大を目指すため、県外や県内学区外在住の親戚等が紀南地域に在住する祖父母・おじおば等の家から通学でき、きめ細かな教育活動のもと学習でき、進路実現できることを推奨する「まごターン入学」をPRしていく。

令和4年度 紀南高校新活性化プランに係る活動指標・成果指標について

<活性化の方向性1> 地域への理解を深め、課題解決に向かう姿勢を育む学習の推進

生徒が地域の一員として役立つことを実感し、自己肯定感・有用感を高め、積極的にコミュニケーションを図ることができるよう能力を育成するとともに、地域への理解を深め、地域への愛着を育むことができるよう、地域を学びの場とした学習を体系的に推進します

活動指標

- ① 地域を扱った授業時間における地域の講師による授業が年間15回以上
- ② 東紀州学におけるフィールドワークが年6回以上
- ③ 地域との合同避難訓練の回数が年1回以上
- ④ 地域イベントへの年間参加の延べ人数が100人以上

成果指標

- ① 生徒の希望職種での就労体験が9割以上
- ② 生徒へのアンケートで「地域への理解が深まった」等の回答が9割以上
- ③ 生徒へのアンケートで「この地域が好き」等の回答が2～3年次で9割以上
- ④ 地域の学習成果をまとめて、SNSでの発信を年10回以上

<活性化の方向性2> 幅広い学力層の生徒の進路希望実現に向けた個に応じた指導

地元就職率の高い看護系への進学、地元企業をはじめとした就職など、幅広い学力層の生徒の大学・専門学校への進学希望や就職希望の実現を目指し、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導の向上を図ります

活動指標

- ① 進学希望者への課外補講を年間200時間以上実施
- ② 地元商工会等と連携した企業説明会の実施または説明会への参加を年3回以上
- ③ 教員が授業研究を伴う研修に一人当たり年間5回以上参加

成果指標

- ① 看護系進学希望者のうち9割以上の合格
- ② 生徒へのアンケートで、「授業がよくわかる」等の回答が8割以上
- ③ 国語・数学・英語がD3（GTZ）相当の生徒の割合を入学時から2年間で半減

<活性化の方向性3> 学校の魅力を広く発信

中学生が目的意識を持って、本校を志望することにつながるよう、生徒による学習成果を発表する機会を充実するとともに、進学指導や就職指導の魅力を広く地域に発信します

活動指標

- ① 高校生による学習成果等の情報発信を実施
 - 小中学校での発表（インターンシップ体験など）年3回以上
 - 学習成果発表会（PBL）年1回
- ② 紙媒体、ブログ等の発信 合計で年40回以上
- ③ 「きなん俳句コンクール」の応募総数のべ500句以上
- ④ 高校生による防災学習の発表を年1回以上
- ⑤ 「孫ターン入学」のPRを3回以上
- ⑥ 高校教員による小中学校等での出前授業の実施を年1回以上

木本高校・紀南高校 令和4年度部活動の状況

資料5

【木本高校】

	運動部数	運動部員数	文化部数	文化部員数	全校生徒数	全学級数
令和4年度	12部	220人	5部	140人	472人	12組

(運動部)

硬式野球部(部員20人) ソフトテニス部(部員19人) 柔道・剣道部(部員22人) 卓球部(部員16人)
男子バスケットボール部(部員25人) 女子バスケットボール部(部員8人) 女子バドミントン部(部員22人)
体操競技部(部員27人) バレーボール部男子(9人) バレーボール部女子(15人) ラグビー部(23人)
サッカー部(14人)

(文化部)

美術・漫画研究・写真部(部員37人) 伝統文化部(部員30人) 吹奏楽部(部員40人) JRC部(部員25人)
放送(部員8人)

令和4年度は、学級減の最終年度で全学年4学級規模となり、全校生徒は472名となった。
部活動加入率は、運動部が46.6%、文化部が29.7%で前年度比3.7%減となる。
学級減による教員減少により顧問が確保できないことから、今年度の県総体終了をもって、男子バレーボール部と女子バスケットボール部は廃部することとなった。
また、文化部においては、昨年度に茶道部と書道部を合わせて伝統文化部としたのに続いて、美術・漫画研究部と写真部を合わせ、今年度より美術・漫画研究・写真部とした。
廃部や統合を進めているが、ほぼ全ての部活動において、顧問は運動部が各2名、文化部は各1名の配置となっており、十分な指導体制ではない。
ソフトテニス、茶道、美術で外部指導者をお願いしており、野球部、吹奏楽部では、OB等に指導をお願いしているが、技術的な指導や、試合・遠征等の引率について、教員の負担が大きいことが課題である。

【紀南高校】

	運動部数	運動部員数	文化部数	文化部員数	全校生徒数	全学級数
令和4年度	7部	51人	9部	48人	196人	7組

(運動部)

硬式野球部(部員9人) ソフトテニス部(部員9人) 柔道部(部員6人) 卓球部(部員6人)
男子バスケットボール部(部員7人) バドミントン部(部員12人) 陸上競技部(部員2人)

(文化部)

ESS部(部員2人) 家庭部(部員9人) 華道・茶道部(部員8人) ワープロ部(部員2人) JRC部(部員3人)
書道部(部員3人) 美術部(部員15人) 吹奏楽部(部員6人) 人権サークル(部員0人)

令和4年度、新入生は8年ぶりに定員を満了し80名が入学したが、運動部加入者は昨年度と変わらず、部活動数の増減はない。
近年、特に団体競技で部員が集まらず、合同チームを組もうにも、他校が遠方で編成が難しい。
そのため、令和元年度にサッカー部が、令和2年度には女子バレーボール部がやむを得ず廃部となった。
今年度も3年次生が引退すると、他校との合同チームを組まないと公式大会に出られない部活動がある。
野球部では、合同でチームを組んで練習を行っているが、顧問の引率が長時間となり、働き方改革が大きな課題となっている。
文化部でも、美術部以外は3学年併せて8人以下の部員数である。
週1回だけ活動している部活動が多いが、部員の都合で毎週活動できている訳ではない。
文化祭も新型コロナウイルス感染症対策のため、近年実施出来ていないので、目標を持たせた活動を支援する必要がある。

東紀州地域 中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）

資料 6

【令和3年度版】今年度版は第2回で配付予定

令和3年5月1日 教育政策課調べ

	H 30.3	H 31.3	R 2.3	R 3.3	R 4.3	R 5.3	R 6.3	R 7.3	R 8.3	R 9.3	R 10.3	R 11.3	R 12.3
	卒業 128	卒業 122	卒業 118	卒業 130	現中3 127	現中2 120	現中1 119	現小6 114	現小5 99	現小4 123	現小3 89	現小2 85	現小1 69
尾鷲市													
卒業生数	128	122	118	130	127	120	119	114	99	123	89	85	69
前年度対比		-6	-4	12	-3	-7	-1	-5	-15	24	-34	-4	-16
R3.3対比					-3	-10	-11	-16	-31	-7	-41	-45	-61
北牟婁郡													
卒業生数	153	115	110	112	121	98	93	78	93	80	73	85	74
前年度対比		-38	-5	2	9	-23	-5	-15	15	-13	-7	12	-11
R3.3対比					9	-14	-19	-34	-19	-32	-39	-27	-38
小計													
卒業生数	281	237	228	242	248	218	212	192	192	203	162	170	143
前年度対比		-44	-9	14	6	-30	-6	-20	0	11	-41	8	-27
R3.3対比					6	-24	-30	-50	-50	-39	-80	-72	-99
熊野市													
卒業生数	145	132	113	117	120	102	111	97	101	105	106	123	98
前年度対比		-13	-19	4	3	-18	9	-14	4	4	1	17	-25
R3.3対比					3	-15	-6	-20	-16	-12	-11	6	-19
南牟婁郡													
卒業生数	186	172	143	157	150	160	153	134	138	128	134	135	106
前年度対比		-14	-29	14	-7	10	-7	-19	4	-10	6	1	-29
R3.3対比					-7	3	-4	-23	-19	-29	-23	-22	-51
小計													
卒業生数	331	304	256	274	270	262	264	231	239	233	240	258	204
前年度対比		-27	-48	18	-4	-8	2	-33	8	-6	7	18	-54
R3.3対比					-4	-12	-10	-43	-35	-41	-34	-16	-70
東紀州合計													
卒業生数	612	541	484	516	518	480	476	423	431	436	402	428	347
前年度対比		-71	-57	32	2	-38	-4	-53	8	5	-34	26	-81
R3.3対比					2	-36	-40	-93	-85	-80	-114	-88	-169

《参考》

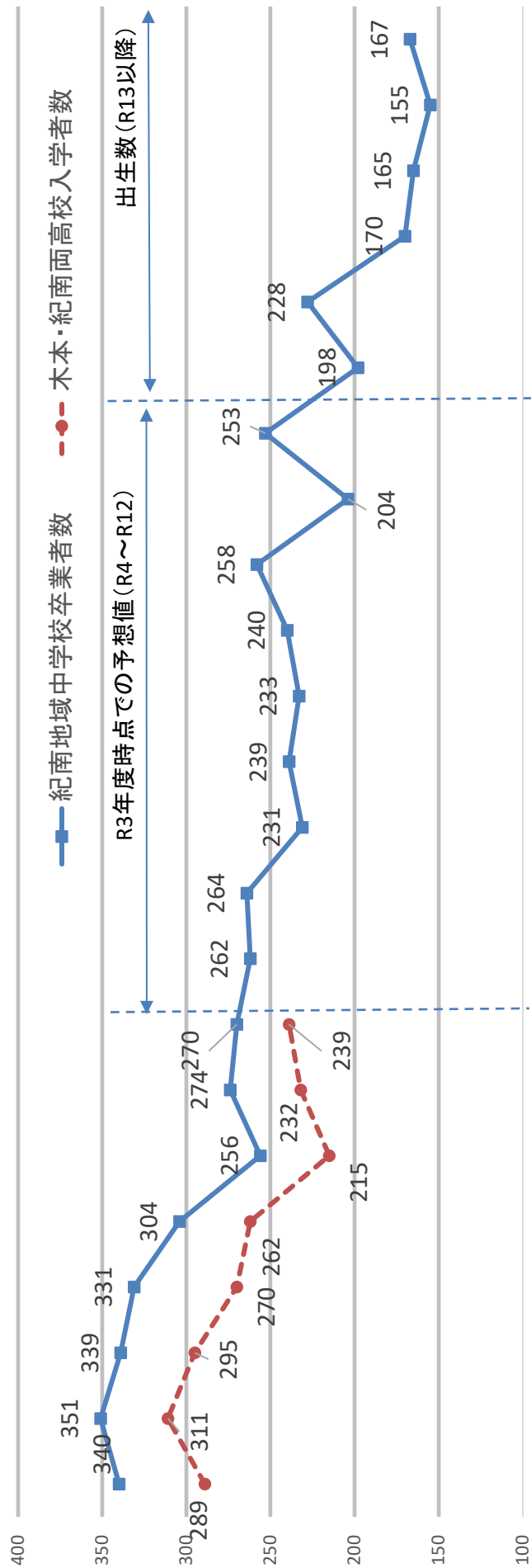
木本高校	募集定員	200	160	160	160
	欠員	10	0	2	0
紀南高校	募集定員	120	80	80	80
	欠員	40	18	23	8
学級数	木本・紀南	5・3	4・2	4・2	4・2

紀南地域の 入学定員の推移予測		R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度	R 11年度	R 12年度
		6学級	6学級程度	6学級程度	5学級程度	5学級程度	5学級程度	5学級程度	5学級程度	4学級程度

熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数(予測)と木本・紀南両高等学校への入学者数

資料7

【暫定版】



現高1

熊野市・南牟婁郡の出生数

	H27年度出生	H28年度出生	H29年度出生	H30年度出生	R元年度出生	R2年度出生	R3年度出生
現小1	99	73	108	60	87	82	68
熊野市	52	42	45	39	25	20	38
御浜町	102	83	75	71	53	53	61
合計	253	198	228	170	165	155	167

1. 木本・紀南両高等学校への入学者数は、熊野市・南牟婁郡中学校卒業者数と比較すると、地域外へ進学する生徒や就職する生徒等が一定存在することから、毎年40人～50人少ない状況です。この状況のまま推移すると、この地域の高校への入学見込み人数は令和7年度には5学級規模、令和12年度には4学級規模となることが見込まれます。
2. 令和7年度にこの地域の高校への入学見込み人数が5学級規模となるとした場合、中学校卒業予定者の進路選択をふまえると、令和7年度以降の当地域における県立高等学校のあり方について協議を進め、方向性を示していく必要があります。

東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数（令和3年7月・12月希望調査と令和4年度の入学者数）
 〈全日制課程〉 R4.3卒

資料 8①

高等学校名	R4 入学 定員	令和3年の希望調査と令和4年度の入学者数（人数）														卒業 者数（人数）			
		各地域別の進学希望と入学人数													入学者 小計				
		熊野市			御浜町			紀宝町			尾鷲市			紀北町					
7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	入学者 小計	
木本高校	160	93	78	75	46	38	35	32	30	36	32	30	12	11	11	7	8	11	19
紀南高校	80	6	18	20	16	22	24	28	27	30	28	27	2	7	2	2	2	6	8
尾鷲高校	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85	86	54	64	65	87	152
東紀州地域の計	415	99	96	95	62	60	59	60	57	66	60	57	99	104	67	73	75	104	179
管内		2	1	1	0	1	1	0	1	0	0	1	8	6	32	21	19	5	24
管外県立高校		2	2	2	1	1	1	3	6	3	6	6	6	6	16	20	19	7	26
管外私立高校		1	4	4	0	0	0	1	0	1	0	0	2	3	1	1	1	2	3
管外高専		8	10	9	2	2	3	8	12	8	12	12	4	3	0	1	1	2	3
県外高校・高専				(6)			(3)		(10)			(19)					(0)	(0)	(0)
その他（定時制/通信制/就職など）		8	6	8	2	3	3	4	4	4	4	6	8	5	4	4	6	7	13
回答・入学者数の計		120	119	119	67	67	67	82	82	82	82	82	127	127	120	120	121	127	248
							64		85			268					121		516

※和歌山県への進学
 (公) 新宮高校1人
 (私) 信愛高校2人
 (私) 近大新宮高校3人

(公) 和歌山北高校1人
 (公) 新翔高校1人
 (私) 近大新宮高校8人

【調査対象】令和4年3月の中学校卒業生【調査方法】教育政策課による各中学校（熊野市・御浜町・紀宝町）への聞き取り

主たる進学理由			
大学進学	部活動	就職	その他
40	20	7	3
(うち近大新宮)	(14)	(4)	(0)

※部活動の種類
 野球、吹奏楽、テニス、
 バスケットボール、サッカー、
 卓球など

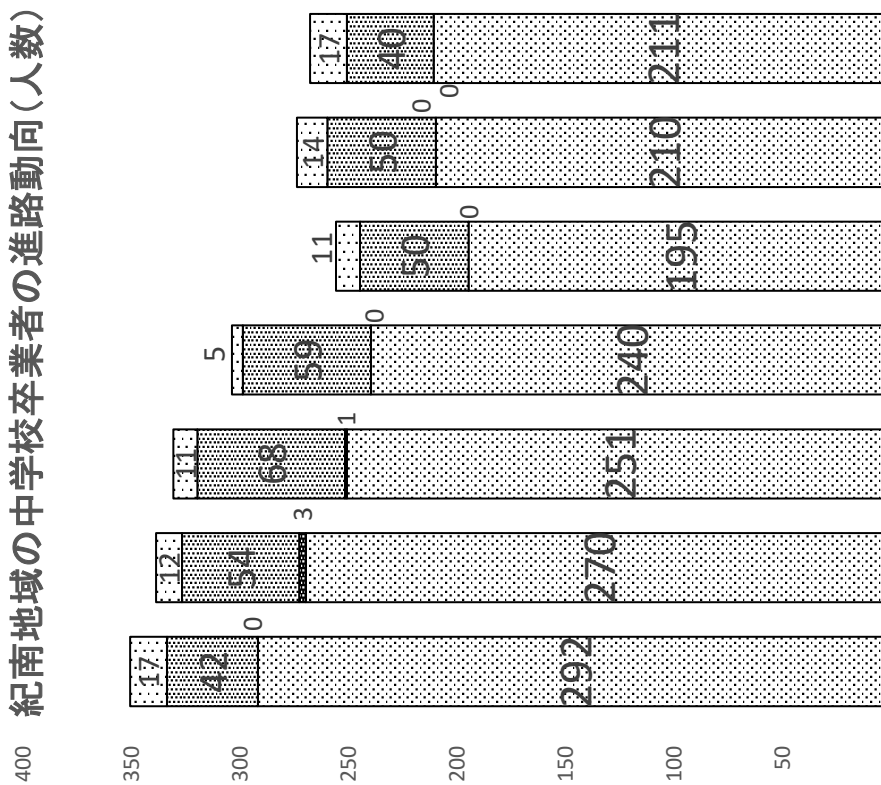
東紀州地域の高等学校への進学希望状況比較と入学者数（令和3年7月・12月調査と令和4年度の入学者数）の地域別割合（％）

〈全日制課程〉 R4.3卒

高等学校名		令和3年の希望調査と令和4年度の入学者数の地域別卒業生数に対する割合（％）														R4 入学 定員									
		各地域別の進学希望と入学の割合																							
割合％	R4 入学 定員	熊野市			御浜町			紀宝町			尾鷲市			紀北町			入学数 小計	入学数 合計							
		7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数	7月	12月	入学数									
木本高校	160	77.5	65.5	63.0	68.7	56.7	52.2	43.9	39.0	36.6	52.2	9.4	8.7	8.7	9.2	5.8	6.6	7.7	30.8						
紀南高校	80	5.0	15.1	16.8	23.9	32.8	35.8	36.6	34.1	32.9	26.5	1.6	5.5	4.7	1.7	1.7	1.7	3.2	15.3						
尾鷲高校	175	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.9	67.7	68.5	45.0	53.3	53.7	61.3	29.5						
東紀州地域の計	415	82.5	80.7	79.8	92.5	89.6	88.1	80.5	73.2	69.5	78.7	78.0	81.9	81.9	55.8	60.8	62.0	72.2	75.6						
県内	管外県立高校	1.7	0.8	0.8	0.0	1.5	1.5	1.5	0.0	0.0	1.2	1.1	6.3	4.7	3.9	26.7	17.5	15.7	9.7	5.2					
	管外私立高校	1.7	1.7	1.7	1.5	1.5	1.5	3.7	7.3	7.3	3.4	4.7	4.7	5.5	13.3	16.7	15.7	10.5	6.8						
	管外高専	0.8	3.4	3.4	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	1.5	14.9	1.6	2.4	1.6	0.8	0.8	1.2	1.4						
県外	県外高校・高専 <small>（うち和歌山県）※</small>	6.7	8.4	7.6	3.0	3.0	4.5	9.8	14.6	14.6	9.0	3.1	2.4	1.6	0.0	0.8	0.8	1.2	5.2						
	その他（定時制/通信制/就職など）																								
回答・入学者数の割合の計		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100					
卒業生数（人数）		117			66			91			274			130			112			242			516		

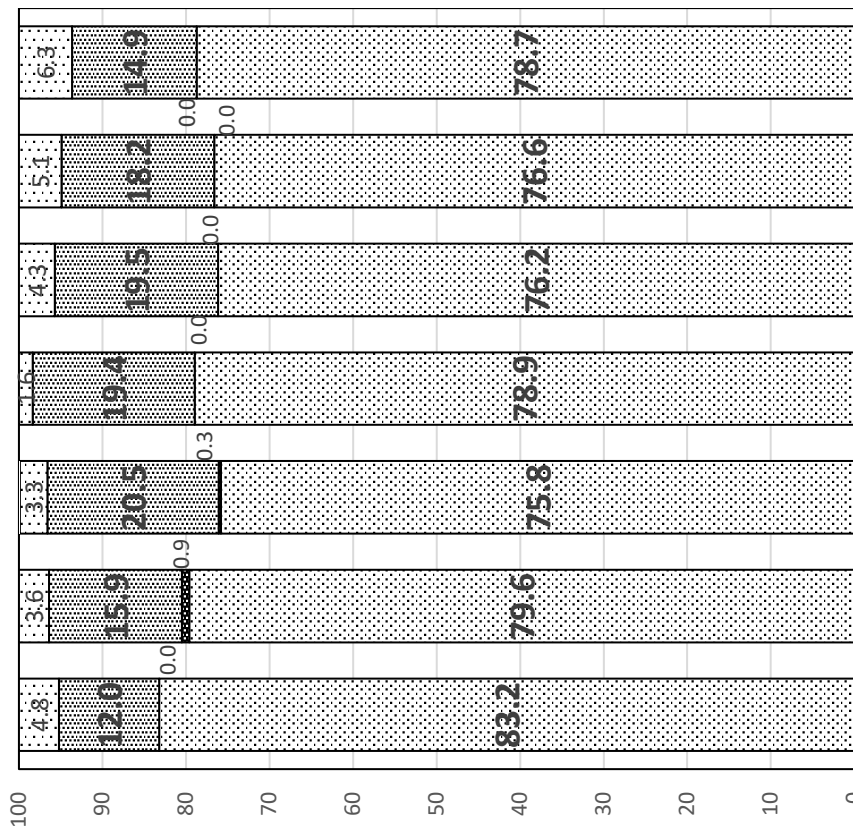
紀南地域の中学校卒業者の進路動向

紀南地域の中学校卒業者の進路動向(人数)



中学校卒業者数	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒
その他 (定通・就など)	17	12	11	5	11	14	17
県内他地域	42	54	68	59	50	50	40
尾鷲	0	3	1	0	0	0	0
木本・紀南	292	270	251	240	195	210	211

紀南地域の中学校卒業者の進路動向(割合)



	H28.3卒	H29.3卒	H30.3卒	H31.3卒	R2.3卒	R3.3卒	R4.3卒
その他 (定通・就など)	4.8	3.6	3.3	1.6	4.3	5.1	6.3
県内他地域	12.0	15.9	20.5	19.4	19.5	18.2	14.9
尾鷲	0.0	0.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
木本・紀南	83.2	79.6	75.8	78.9	76.2	76.6	78.7

令和4年度の協議について

1 はじめに

少子化の進行とともに、予測困難なほど社会情勢が大きく変化する中、子どもたちを取り巻く教育的課題はより複雑化・多様化し、さらにコロナ禍により学校のあり方や教育そのものの意義も問われています。これからの時代を生きていく高校生に育む力や、本県の県立高校で進めていく教育など、これからの三重の高校教育のあり方については、「三重県教育改革推進会議」を中心に審議を重ね、昨年度末には「県立高等学校活性化計画」（令和4年度から5年間）を策定しました。

2. これまでの協議

紀南地域高等学校活性化推進協議会では、平成24年度の協議会のまとめにおいて、「将来的に、地域状況を考慮し、紀南高校が1学年2学級、もしくは木本高校が1学年5学級を維持できないとき、両校の統合は避けられない」とし、平成25～27年度にはこのことを踏まえた協議を行ってきました。

平成28年度の協議においては、両校を存続させることを望む意見が改めて出されたこと、また、平成29～令和3年度の「県立高等学校活性化計画」期間には、「1学年2学級以下の高等学校において、協議会を設置し、地域と一体となった活性化に取り組む」という方向性のもと、紀南地域の中学校卒業生の動向等を共有しながら、両校の活性化に向けた主な取組について協議してきました。

3. 地域の現状と課題

- (1) 木本高校は、サポート委員会（学校関係者評価委員会）を活用するなど地域や地元行政との連携を強化し、進学や部活動へのニーズや期待に応えることをはじめとした教育活動の充実に努めています。
- (2) 紀南高校では学校運営協議会において、地域の方々と連携しながら学校教育の充実を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めています。また、前活性化計画期間（H29～R3）には紀南高校活性化協議会においても高校の魅力化向上と活性化に取り組み、令和3年度にはこれまでの活性化の取組について総括的な検証を行いました。
- (3) 熊野市・南牟婁郡中学校から、大学進学や部活動を目的として、毎年40～50人ほどの中学生が、県内の地域外や和歌山県を中心とした県外の高校・高専へ進学しています。
- (4) 両校がそれぞれに活性化を進める中、入学者選抜においては、地域の中学校卒業生が減少していることや県外や県内他地域の高校・高専への進学者の影響もあり、欠員を生じています。特に令和7年度、および令和12年度の当地域の中学校卒業生数の減少を勘案すると、生徒の学びを保障するための紀南地域の高等学校のあり方について、具体的な協議を進めていく必要があります。

4. 協議の進め方

紀南地域協議会では、昨年度末に策定された県立高等学校活性化計画に基づき、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、当地域での高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、統合についての協議も行います。

今後の紀南地域の県立高等学校の総学級数は段階的に減少していくことが見込まれており、協議会ではこれからの時代に求められる高等学校の実現に向けて具体的な対応もあわせて協議していきます。

今年度の協議では令和7年度の地域の高等学校のあり方について協議を進めていきますが、中学生が高校を選択する時期をふまえ、今年度の12月までに協議会として一定の方向性をまとめることとしたいと考えます。

5. 今年度の協議会開催スケジュール（予定）

(1) 第1回協議会（6月7日）

- ・紀南地域の高等学校を取り巻く状況について（情報共有）
- ・木本高校・紀南高校の活性化に向けた取組について
- ・紀南地域の県立高等学校の今後のあり方について①
- ・その他

(2) 第2回協議会（6月下旬～7月上旬）

- ・紀南地域の県立高等学校の今後のあり方について②
- ・その他

(3) 第3回協議会（8月中旬～下旬頃）

- ・紀南地域の県立高等学校の今後のあり方について③
- ・その他

(4) 第4回協議会（10月上旬頃）

- ・紀南地域の県立高等学校の今後のあり方について④
- ・その他

(5) 第5回協議会（2～3月頃）

- ・紀南地域の県立高等学校の今後のあり方について⑤
- ・来年度の協議に向けて
- ・その他

令和2～3年度協議会での主な意見

<地域の高校における教育内容等について>

- この地域の高校生はいろいろな職業に接することが少ない。職業が多様であるという情報が得られるような教育活動が推進されることが望ましい。(R2, 第1回)
- この地域で働く場所が少ないというイメージがあるからか、求人を出してもなかなか来てもらえない。高卒生の就職者が欲しいし、地域でできる限り働いてもらいたい。紀南高校では様々な分野の地元の職業人が、講師として説明する機会があるので、その中でもっとPRをしていきたい。(R2, 第1回)
- 地域に生徒を定着させるには、産学が連携して、今までと違った観点で子どもたちを育てていくべきである。国がGIGAスクール構想を進めているが、通信環境が整っていない家庭も多い。情報ネットワークを整え、ICTの使い方を学ぶことで2校がうまく連携することができれば、小規模となったとしても2校のまま存続していける可能性はある。(R2, 第1回)
- 木本高校が進学校として存続していくためには、5クラス規模でないと教員の確保等の面で課題が生じると聞いていたが、4学級規模となった現高校1年生の様子はどうか。→ 理科などは科目ごとの専門分野の教員を確保することが難しいが、スタディサプリやクラッシーなどを活用したり、教員が個別で質問を受けつけたりすることにより対応している。(R2, 第1回)
- 木本高校生による小学校での英語の授業は、今年度はコロナ禍のため実施出来なかったが、昨年度は2回実施し、とても良い活動であった。小学生は教えてもらうことで高校生にあこがれ、また顔つきが変わった小学生の変化を目の当たりにした高校生も自信を持つことにつながっている。(R2, 第2回)

<部活動をはじめ、地域の県立高校の現状等について>

- 木本高校は、大学への進学希望を実現できる地域の高校として、普通科3学級・総合学科1学級で教育活動に取り組んでいるが、学級減に伴う教員減により、教育活動をこれまでと同様に行うことが難しくなっている。今後、部活動の顧問が確保できないだけでなく、科目数の多い地理歴史・公民科や理科の教員の配置が難しくなり、その結果、生徒の選択の幅が狭くなっていく。(R3, 第1回)
- 紀南高校は、時代のニーズをふまえ地域に根差した取組を進めているが、地域の中学生や保護者は伝統校の木本高校を目指す傾向がどうしても強い。木本高校の令和2年度の四年制大学への進学実績は65人で、大学進学へのニーズとしては2学級規模に相当する人数となっている。進路を検討するにあたって、木本高校の普通科に対する進学校のイメージと多様な進学実績等の現状にギャップを感じる中学生や保護者もいる。(R3, 第1回)
- 生徒の減少による学級減の結果、教員が減り、部活動を指導する顧問が不足し、希望する生徒がいても廃部せざるを得なくなっている。子どもたちの学校生活を充実するうえで部活動は大きなウエイトを占めている。部活動が学校と地域をつなげる大切な架け橋となるよう、教育委員会が必要に応じて外部指導者を確保して欲しい。
→ 部活動は、異なる学年の子どもたちが一緒に活動することにより主体的に非認知

能力を培える場であり、コロナ禍の中で、その教育的効果が一層浮き彫りになったと思う。一方、働き方改革を進める中で、教職員の時間外勤務に占める割合の最上位は、部活動に係わる時間であることが分かっている。また、部活動を理由に地域外へ進学している生徒は毎年20人～30人と地域外進学者の約半数近くに及ぶ。現在、外部人材の活用や地域スポーツの活用等の方向性を国が出そうとしており、それを参考にして検討していきたい。(R2, 第1回)

- 紀南高校はコミュニティスクールであるが、地域による部活動のサポートもあるのか。→ 教育課程の中でのサポートが中心であるが、外部指導員として運動部の監督をしていただいたり、同窓会や地域企業の方からは、陸上競技部のためにオールウェザートラックを設置していただいたりもしている。(R2, 第1回)
- それぞれの学校において生徒減にともない存続が難しくなってきた部活動もある中、自身が種目やレベルを求めて管外へ進学する生徒も多い。両校で一体となって部活動を行ってはどうか。(R2, 第2回)
 - 合同での出場が認められている競技や参加できる大会はある。また、校舎制の南伊勢高校では、両校舎で移動しあって合同練習をしている部も存在する。もし、当地域において同様な活動を行おうとすると、移動時間がかかるため練習時間が短縮されることが予測されるが、対応策として検討に値するのではないか。

<地域の高校のあり方を協議する場合に大切な考え方について>

- 統合について協議する際には、法的、財政的な制約があると思うが、子どものことを一番に考えて議論してほしい。誰一人取り残さない教育を目指し、どの地域に生まれても子どもたちの学びを保証してほしい。(R2, 第2回)
- 子どもたちが自分の行きたいところで学べるようにしてほしい。また、保護者の意見も聞いて欲しい。(R2, 第2回)
- 令和7年度の生徒減について協議しなければならないのも分かるが、御浜町や熊野市の昨年の出生数は驚くほど少ない。15年先の少子化をふまえて学校のあり方を考えることによって、令和7年度のあり方の考え方も変わるのではないか。(R2, 第2回)
- 木本高校が5学級規模を下回るころから、紀宝町では、大学進学をめざす生徒が、自転車でも通学できる近大新宮高校に進学する傾向が強まったように思う。今後さらに少子化が進む中で、生徒や保護者のニーズに対応していくためには、この紀南地域の県立高校2校だけでなく、新宮市内の高校も含めて生徒に幅広い選択肢を提供する視点で考えていいのではないか。(R3, 第2回)
- 次年度の活性化協議会については、平成28年度のように途中でゴールを見失うことのないよう、論点を焦点化して県の方向性を示し、子どもたちの学びがどうあるべきか協議してほしい。また、この協議会での意見を教育改革推進会議にも届けてもらいたい。(R2, 第2回)
- 紀南PTA連合会では、これからの紀南地域を活性化するためには、高校の統合という問題だけにとどまらず、産業の振興による雇用の拡大等により若者を地域に定着させることを目指し、SDGsの視点を持って、小中学校、商工会、行政等が協力・連携して地域全体の活性化を図っていくべきであると考えている。(R3, 第1回)

<紀南地域の県立高校のあり方について>

- 紀宝町内では、今後、学校へ入学してくる子どもたちは増々減っていく。県から具体的な案の提示をしてもらい、他府県等の好事例を参考にし、住民の声もしっかりと聞きながら、今後の長期的な学校のあり方を協議していくべきである。(R2, 第2回)
- 今後の中学校卒業生数の推移から考えれば両校の統合はやむを得ないが、通学について考えると、広い紀南地域全体を考えた最適な配置を決めるのは難しい。ICTを最大限に活用した遠隔授業による学びの保障についても検討するべきではないか。(R2, 第2回)
- 平成28年度の当協議会の中で、両校の統合に向けて熊野市と紀宝町の間付近の高台に新校舎建設の議論もあったが、県教育委員会からは県財政逼迫の中で現実的に難しいとの見解が示された。この状況は現在でも変わらないのか。
→ (事務局) 現在でも県の財政状況が苦しいことには変わりはない。両校を統合する場合は現在の県施設を活用していく方向である。(R3, 第2回)
- 地域では子育てしやすい環境が重要となるため、近くに通える高校があることが望ましい。他県の分校や校舎制等の事例も参考にしながら、この地域で2校舎を存続していく方策も検討できないか。また、今後の協議の方法については、県教育委員会から協議のたたき台となるものを示して進めてもらいたい。(R3, 第2回)
- 2校のあり方については、想定されるいくつかのパターンを全体で共有し、よりベターなものを検討していくしかない。今後も小規模化が進む中、木本高校は大学進学をはじめ、地域の高校として生徒や地域のニーズに応えるとともに、生徒の自己実現を目標に取組を進めていかなければならない。(R3, 第2回)

(両校の統合を進める議論が必要)

- 2校を存続しても、両校でそれぞれ生徒数が減っていけば、校内での選択肢が減ってしまうことから、現在2割程度いる管外進学者がさらに増えてしまう可能性がある。両校のよいところを残して、校内の選択肢を増やすために統合することは有りうるのではないか。この地域から管外へ進学することは、通学費等、経済的な負担が大きい。学校の新たな魅力を高め、この地域の学びを充実させるという点で、統合は必要である。(R2, 第2回)
- 子どものことを第一に考えると、統合が必要だと考える。地元の者が話すとどうしても木本高校寄り・紀南高校寄りの考えになってしまうので、県主導で統合の方向性を出したうえで、その後ハード面、ソフト面をどうするか考えるべきではないか。地域全体の中学校卒業生数が、3、4学級規模になる前に先に統合をすべきだと思う。(R3, 第1回)
- 小規模になることで、これまでの地域に根差した学習活動や部活動を行うことがさらに難しくなることが予想される。(R3, 第2回)
- 小規模化が進めばそれぞれの高校に配置できる教員数が少なくなり、それだけ学校運営は難しくなるため、少子化が進む現状から考えると両校を統合していくことは致し方ない。(R3, 第2回)
- 将来2校の統合については仕方がないことと考えており、保護者の立場からは、子どもが十分に教育を受ける体制や学習環境を整備していくことが何よりも大切と考える。(R3, 第2回)

- 令和7年度に5学級規模となる高校の姿は、現実的には木本5学級—紀南0学級、木本4学級—紀南1学級、木本3学級—紀南2学級が考えられるが、果たして1学級規模の学習環境で本当にこれからの時代を生きる子どもたちに必要な教育を提供できるのか、もっと真剣に検討していく必要がある。(R3, 第2回)

(両校を存続する検討が必要)

- 熊野市から遠方に位置する紀宝町にとっては、かつての中間地点に新校を設立する案には賛成したが、熊野市まで通学することは単純には受け入れがたい。仮に統合により一時的に5学級を維持したとしても、すぐに4学級、3学級となってしまう。紀南高校は小さな学校であるが、きちんと学べる環境があり、先生方は一生懸命取り組んでもらっている。さらなる魅力を打ち出して、存続を図ることも検討して欲しい。(R2, 第2回)
- 紀南高校は、コミュニティスクールとして教職員も一生懸命に取り組んでいる。教職員の話から、多様な学力の生徒や、特別な支援を必要とする生徒も在籍している中、教員数が減少し学校も無理していることがうかがえる。同窓会としても、ほとんどの者が何が何でも学校を存続させてほしいとは思ってはいない。2校存続させることによりできるだけ幅広く学力保障、進路実現ができる体制を目指してきたが、仮に紀南高校が1学級になったときに、子どもたちにとって本当にそれでいいのか真剣に考えている。一方、もし木本高校に統合された場合には、紀宝町の子どもたちは通学に困ることになり、子どもたちのために地域としてどうすればいいのか悩ましい。ただ、紀南高校が地域からなくなると、紀宝町の中学校卒業者が、和歌山県に流れてしまうのは間違いない。(R3, 第1回)
- 今後の地域の中学校卒業者の減少を考慮に入れば、2校の統合もやむを得ないと考えるが、生徒のことを考えると、高校進学時に選択肢がある方が望ましい。たとえば2校で校舎制を採用し、土日だけでも合同で部活動をしたり、両校舎の教員が協力して学校運営にあたったりすれば、統合しても子どもたちに選択肢を残せるのではないか。(R3, 第2回)
- 紀南高校は、これまで地域と一緒に活性化に一生懸命に取り組んできた。地域にとっても高校の存在は大きく、その存続を望んでいる。もし2校が統合するとなった場合には、地域の子どもたちにより実社会で役立つ教育をしてもらいたいし、通学に関しては、たとえばスクールバスの支援等も検討してもらいたい。(R3, 第2回)
- 地域の衰退をとどめるためにも学校は必要であり、子どもたちが紀南地域の高校を選択して、地域に残ることが地域の活性化にもつながると考える。また、令和7年度に5学級規模の学校をつくる時は、現在の紀南高校普通科、木本高校普通科、総合学科の枠組みを再考して学科を配置してもらいたい。(R3, 第2回)
- 紀南地域は都会と比べて人口が少なく、子どもたちにとって他人とのコミュニケーションをとる機会も少なくなるため、一定規模の集団生活を通じて多くの経験をさせてやりたいが、本人や保護者の負担を考えると近くの学校への通学が可能な2つの校舎で学べる体制にもメリットを感じる。(R3, 第2回)

紀南地域の設置学科と学級数の推移

資料11

学校名	学科名	学級数																															
		49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
木本	普通	7	6	7	7	7	7	7	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2
	商業	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2												
	家政	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1													
	総合学科																																
紀南	計	10	9	10	10	10	10	10	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	
	普通	6	5	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	5	5	
	計	6	5	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5	5	5	4	4	3	3	3	
合計		16	14	16	16	16	16	16	15	13	14	14	14	14	14	14	14	14	15	14	14	14	13	13	13	13	13	11	11	10	10	10	

【木本高校総合学科の系列の推移】

平成6年（5クラス）設置：初年度

- ①国際教養系 ②環境科学系 ③情報系 ④ビジネス系
- ⑤芸術・文化系 ⑥生活科学系 ⑦体育武道系

平成26年（2クラス）設置

- ①家庭系列 ②情報・会計系列
- ③スポーツ系列 ④スタンダード系列

令和2年度（1クラス）設置

- ①キャリア系列 ②スタンダード系列

学校名	学科名	学級数																			
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
木本	普通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	商業																				
	家政																				
	総合学科	5	4	4	4	4	4	4	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	
紀南	計	7	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	
	普通	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	
	計	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	
合計	10	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	7	6	6	6	6	6		

学級規模による教育環境の比較

1. 開設科目【普通科における科目の開設状況の例】

同じ普通科であっても各校の特色やコース設定があるため単純な比較はできないものの、学級規模が小さくなることにより、それぞれ開設科目が減少する傾向があります。

教科	科目	A校5学級	B校4学級	C校3学級	D校2学級	E校1学級
国語	現代の国語	○	○	○	○	○
	言語文化	○	○	○	○	○
	論理国語	○		○	○	○
	文学国語	○	○	○	○	
	国語表現	○				○
	古典探究	○		○	○	○
	(学校設定科目等)	○	④	③		②
地理歴史	地理総合	○	○	○	○	○
	地理探究	○	○			
	歴史総合	○	○	○	○	○
	日本史探究	○	○	○	○	○
	世界史探究	○	○	○	○	
		○				
	(学校設定科目等)	○	○			
公民	公共	○	○	○	○	○
	政治・経済		○	○	○	○
	(学校設定科目等)	○	○			
数学	数学Ⅰ	○	○	○	○	○
	数学Ⅱ	○	○	○	○	○
	数学Ⅲ	○	○			
	数学A	○	○	○	○	○
	数学B	○	○	○	○	○
	数学C	○		○	○	
	(学校設定科目)	⑤	③	③	②	○
理科	科学と人間生活	○	○	○	○	
	物理基礎	○		○		
	化学基礎	○	○	○	○	○
	生物基礎	○	○	○	○	○
	地学基礎	○		○		○
	物理	○		○		
	化学	○		○	○	
	生物	○	○	○		
(学校設定科目等)					②	
保健体育	体育	○	○	○	○	○
	保健	○	○	○	○	○
	(学校設定科目等)		○		○	○
芸術	音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○	○	○	○	○Ⅰのみ
	美術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	○	○	○	○	○Ⅰのみ
	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		○Ⅲなし	○	○	
	(学校設定科目)	○	⑥	○	②	②
外国語	英語コミュニケーションⅠ	○	○	○	○	○
	英語コミュニケーションⅡ	○	○	○	○	○
	論理・表現Ⅰ	○		○	○	○
	(学校設定科目等)	④	⑤	○	○	③
家庭	家庭基礎 または 家庭総合	○	○	②	○	○
	フードデザイン	○	○		○	
	(学校設定科目等)	○	○	○	○	③
情報	情報Ⅰ	○	○	○	○	○
	情報Ⅱ	○		○		
	その他		○	○		
商業	簿記	○	○		○	
	情報処理	○	○	○	○	○
	(学校設定科目等)		○		②	③
(学校設定科目等)	○	②		②	②	

○の中の数字は設置された科目数。○のみは1科目

2. 教員配置

各校に配置する教員数は、学級数（≒募集定員）に応じて定められており、

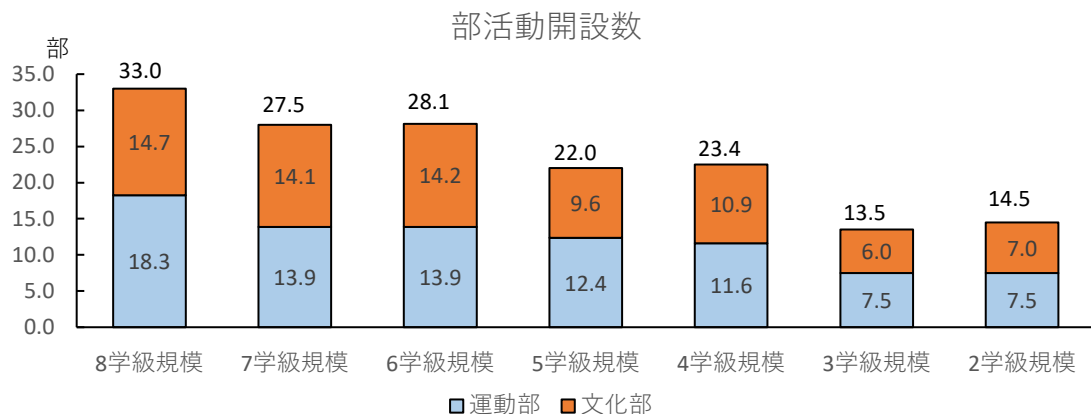
1学級減るごとに5～7人の教員が減ります。

学級数	8学級	7学級	6学級	5学級	4学級	3学級	2学級	1学級
教員数 (人)	52	47	42	35	28	22	15	8

※ 上記以外に一定の加配教員、非常勤講師の配置あり

3. 部活動

部活動開設数については、4～8学級規模の学校では平均22～33部が開設されている一方で、2～3学級規模の学校では平均13.5～14.5部と、6学級規模以上の学校の半分程度になっているなど、学校規模が小さくなるほど生徒における部活動の選択の幅は限られる状況となっています。また、硬式野球、サッカー、バレーボール、バスケットボールなどの団体競技に所属する生徒数が少なくなり、単独チームでの大会出場が難しくなっています。



※ 令和2年度三重県学校体育・部活動実態調査より

【木本高校】

	募集定員	全学級数	全校生徒数	運動部数	運動部員数	文化部数	文化部員数
令和4年度	4学級	12組	472人	12部	220人	5部	140人
令和3年度	4学級	13組	515人	12部	243人	6部	169人
令和2年度	4学級	14組	545人	13部	226人	7部	168人
令和元年度	5学級	15組	580人	15部	264人	10部	199人
平成24年度	6学級	18組	674人	18部	306人	14部	220人
平成18年度	7学級	21組	834人	19部	319人	16部	241人

【紀南高校】

	募集定員	全学級数	全校生徒数	運動部数	運動部員数	文化部数	文化部員数
令和4年度	2学級	7組	196人	7部	51人	9部	48人
令和3年度	2学級	6組	176人	7部	51人	9部	36人
令和2年度	2学級	7組	193人	8部	58人	10部	52人
令和元年度	2学級	8組	236人	9部	79人	10部	80人
平成24年度	3学級	9組	326人	8部	115人	10部	59人
平成18年度	3学級	9組	287人	8部	85人	10部	59人

県立高等学校生徒を対象としたアンケート結果（抜粋）

- 調査期間：令和2年12月7日（月）～令和3年1月11日（日）
- 調査形態：「Google Forms」を用いたインターネット接続によるアンケート
- 調査対象者：全県立高等学校における令和2年度入学生
（現3年生が1年生の時のアンケート結果）
- 回答者数：3,373人
うち紀南地域：紀南高校（53）、木本高校全日制（普通科39）、定時制（5） 計97人

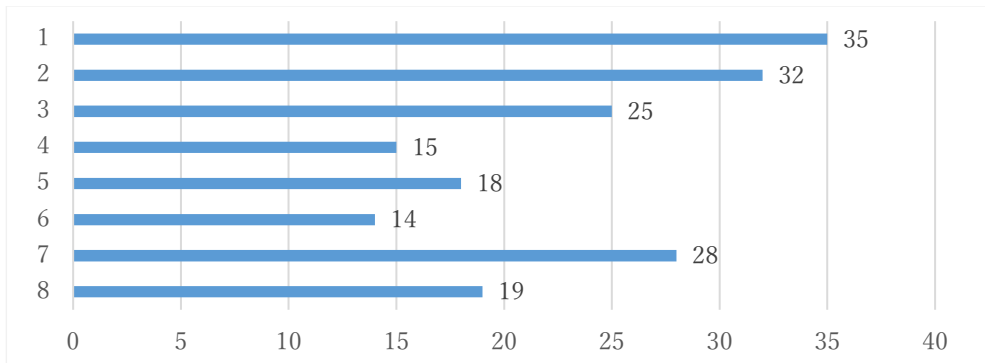
（質問項目） 今回の資料では○の結果を掲載

- 質問1 高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。
- 質問2 現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。
- 質問3 高校を選ぶとき、参考にしたことは何ですか。
- 質問4 どんなときに、現在通っている高校に入学できてよかった、と実感できますか。（自由記述）
- 質問5 現在通っている高校での生活について、満足していますか。
- 質問6 質問5で、「① 満足している」「② どちらかといえば満足している」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。
- 質問6 質問5で、「③ どちらかといえば満足していない」「④ 満足していない」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。
- 質問7-1 あなたは普段、授業の予習・復習や受験勉強、資格取得のための学習などを、授業以外（家や塾、放課後の学校等）でどれくらいしていますか。平日について、教えてください。
- 質問7-1（2） 質問7-1で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問7-2 同じく、休日について、教えてください。
- 質問7-2（2） 質問7-2で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問8 あなたは普段、学校の授業時間以外に、一日あたり平均でどれくらいの時間、読書をしますか。最も近いものを教えてください。
- 質問8-2 質問8で「① 全くしない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問9 あなたは普段、学校の図書館をどれくらい利用しますか。最も近いものを教えてください。
- 質問9-2 質問9で「① 全く利用しない」と答えた人にお尋ねします。その理由を教えてください。
- 質問10 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。
- 質問10-2 質問10で「① 考えることがよくある」「② 考えることがときどきある」と答えた人にお尋ねします。地域の行事やボランティア活動など、地域や社会をよくすることにつながる活動をしていますか。
- 質問11 次のうち、これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。
- 質問12 質問11で選んだ項目について、あなた自身は、それらを身につけることができていると思いますか。
- 質問13 学校だけではなく普段の生活も含めて、これから学びたいと思っていることや、興味・関心を持っていることについて、一言（一文）で表現してください。
- 質問14 今後、どのような形の授業を受けたいですか。
- 質問15 現在通っている高校をよりよくするためには、どんなことをしたらよいと思いますか。（自由記述）
- 質問16 これからの社会には、どんな高校があったらいいと思いますか。（自由記述）

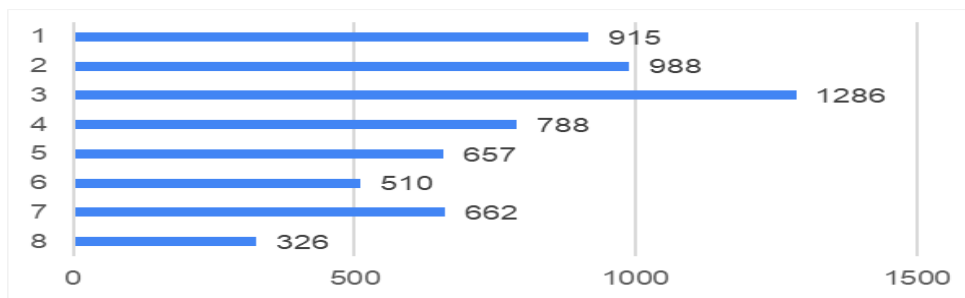
質問1 高校に入学する前、高校に対して期待していたことは何ですか。(2つまで選べます)

- 1 社会に出て暮らすときに必要となる基礎的・基本的な学力を身につけることができる
- 2 大学などに進学するために必要となる学力を身につけることができる
- 3 将来必要となる資格や技能を身につけることができる
- 4 興味・関心のある分野の学習を深めることができる
- 5 文化祭・体育祭などの学校行事に活発に取り組むことができる
- 6 部活動に活発に取り組むことができる
- 7 友人や先輩、先生などたくさんの人と出会うことができる
- 8 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができる

○紀南地域の高校生

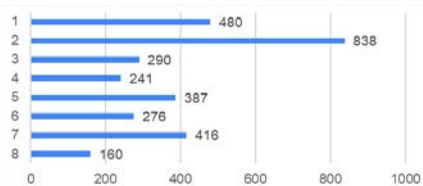


全体 回答者数：3,373



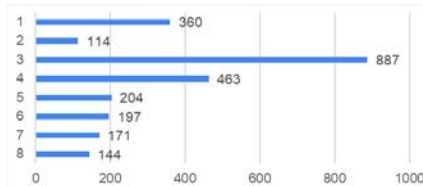
普通科、普通科系専門学科 ※1

回答者数：1,695



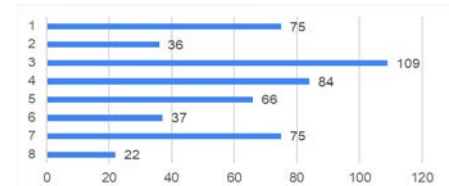
職業系専門学科 ※2

回答者数：1,395



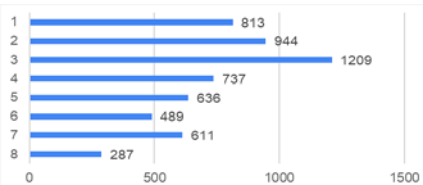
総合学科 ※3

回答者数：283



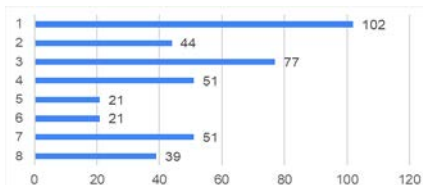
全日制

回答者数：3,146



定時制・通信制

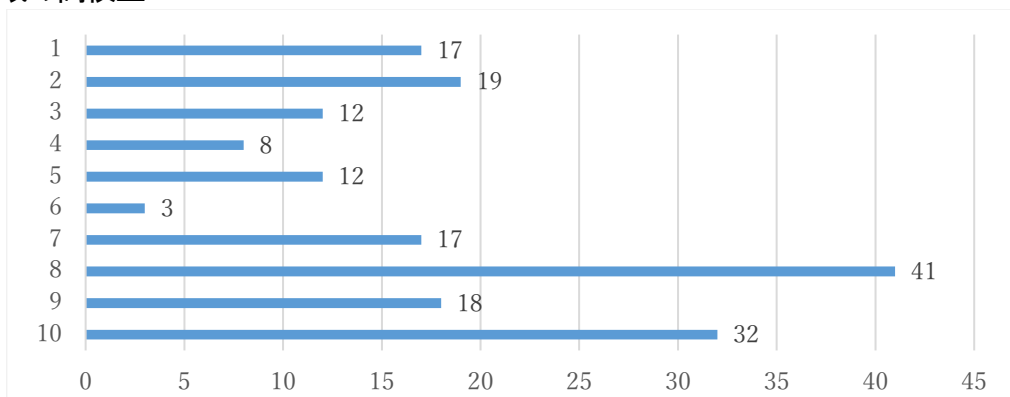
回答者数：227



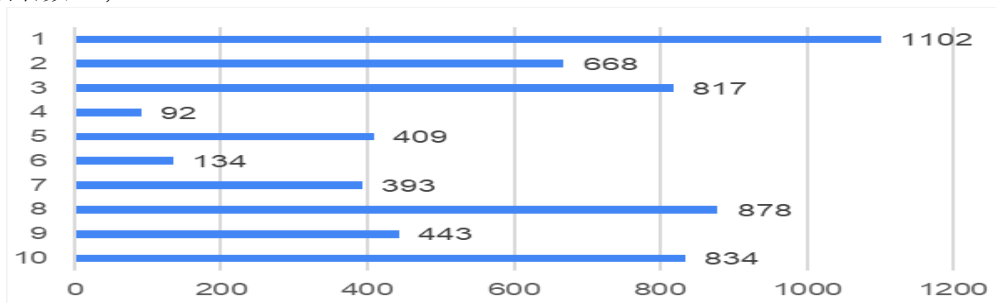
質問2 現在通っている高校を選んだ理由は何ですか。(2つまで選べます)

- 1 学びたい、または興味・関心のある内容の学習ができる
- 2 卒業後に大学に進学するための学習ができる
- 3 将来就きたい仕事と関係する学習ができる
- 4 地域の人々と関わりながら地域について学ぶ学習ができる
- 5 入部したい部活動がある
- 6 施設や設備が充実している
- 7 学校のもつ雰囲気やイメージがあっていた
- 8 自分の実力にあっている高校だと思った
- 9 家族や親せき、中学校の先生などにすすめられた
- 10 自宅から近く、通いやすい

○紀南地域の高校生

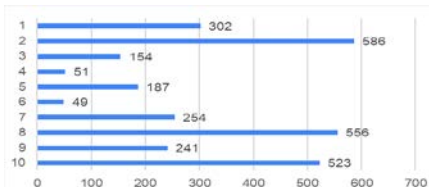


全体 回答者数：3,373



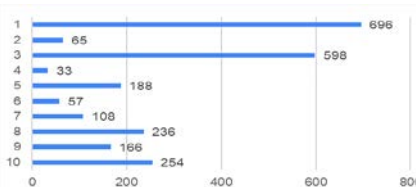
普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,695



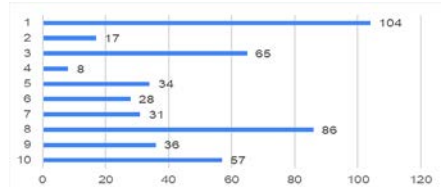
職業系専門学科

回答者数：1,395



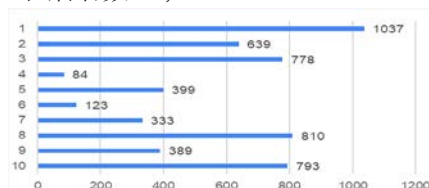
総合学科

回答者数：283



全日制

回答者数：3,146



定時制・通信制

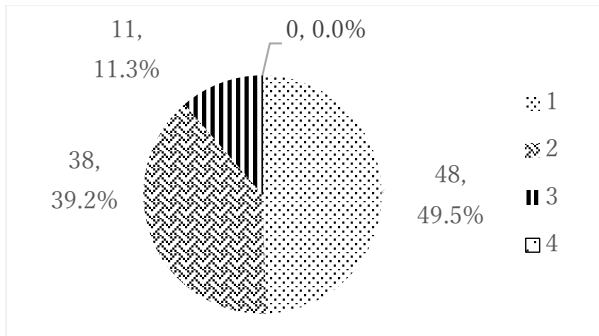
回答者数：227



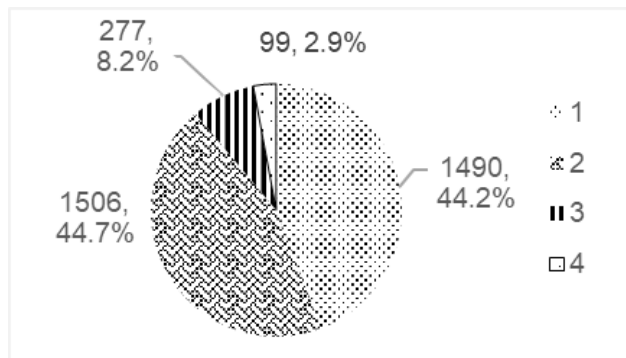
質問5 現在通っている高校での生活について、満足していますか。(選べるのは1つだけです)

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足している
- 3 どちらかといえば満足していない
- 4 満足していない

○紀南地域の高校生



全体 回答者数：3,372



普通科、普通科系専門学科

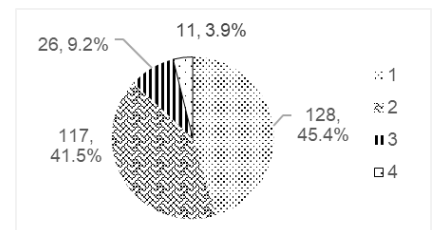
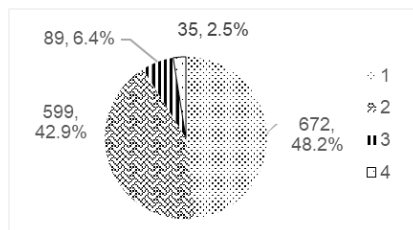
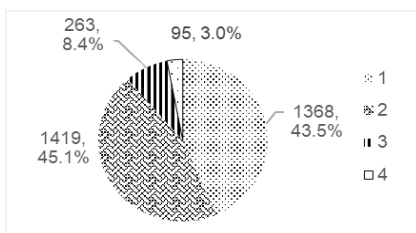
回答者数：1,695

職業系専門学科

回答者数：1,395

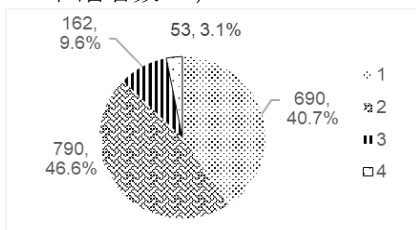
総合学科

回答者数：282



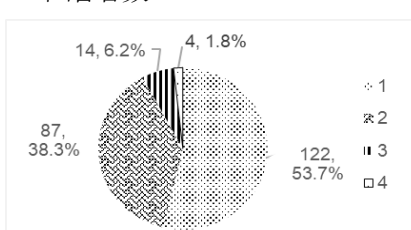
全日制

回答者数：3,145



定時制・通信制

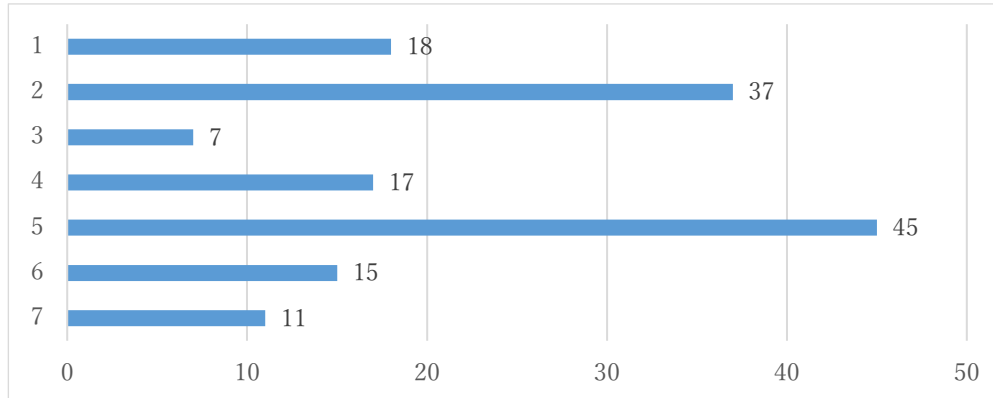
回答者数：227



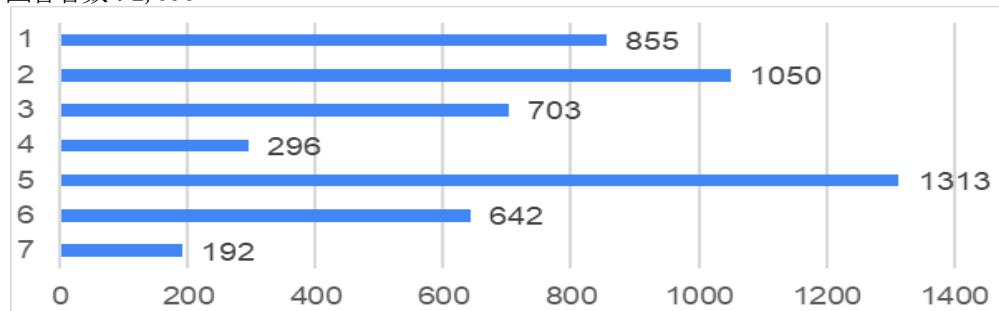
質問6 質問5で、「① 満足している」「② どちらかといえば満足している」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。(2つまで選べます)

- 1 ためになると思える授業がある
- 2 楽しいと思える授業がある
- 3 ほかの学校にはない特徴的な学習や活動がある
- 4 先生が丁寧に指導してくれたり、相談にのってくれたりする
- 5 友人や先輩などと、よい人間関係がつくれている
- 6 部活動が楽しく、充実して取り組んでいる
- 7 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができる

○紀南地域の高校生

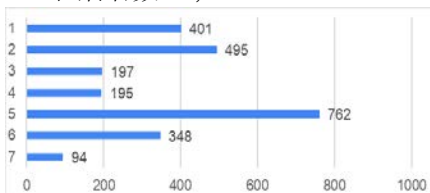


全体 回答者数：2,996



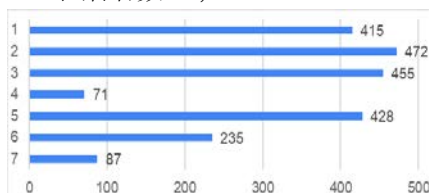
普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,480



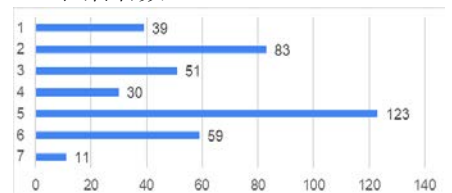
職業系専門学科

回答者数：1,271



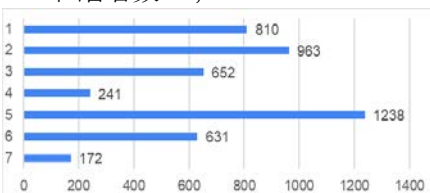
総合学科

回答者数：245



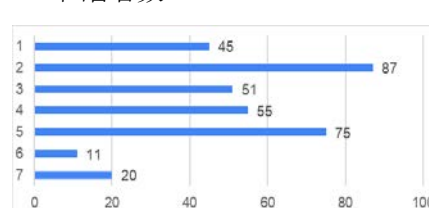
全日制

回答者数：2,787



定時制・通信制

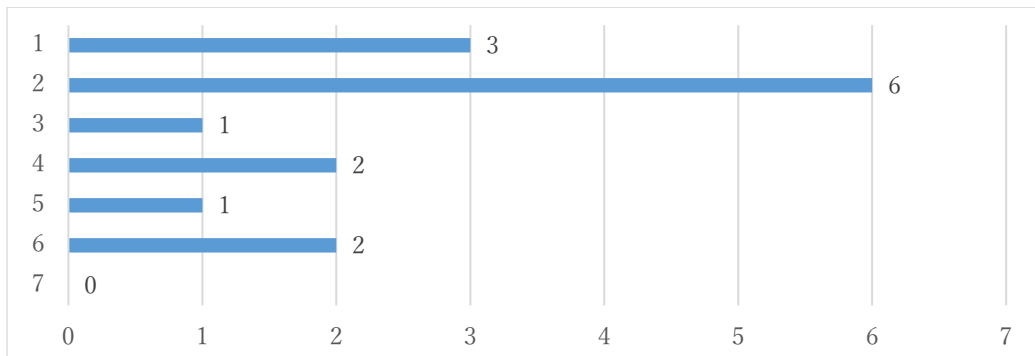
回答者数：209



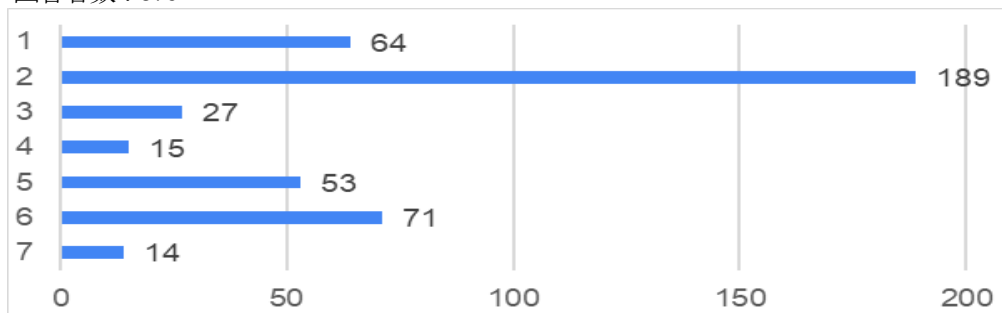
質問6 質問5で、「③ どちらかといえば満足していない」「④ 満足していない」と答えた人にお尋ねします。そのように答えた理由は何ですか。（2つまで選べます）

- 1 ためになると思える授業が少ない
- 2 楽しいと思える授業が少ない
- 3 その学校ならではの特徴的な学習や活動がない
- 4 先生との関わりがあまりなく、指導をしてもらったり相談にのってもらったりする機会がない
- 5 友人や先輩など、人との出会いの機会が少ない
- 6 部活動が楽しくない
- 7 社会人になったときに必要となる礼儀やマナーを身につけることができない

○紀南地域の高校生

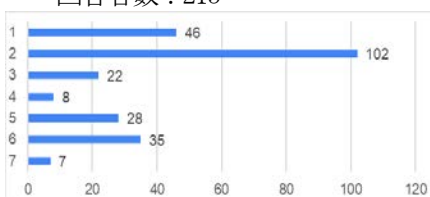


全体 回答者数：376



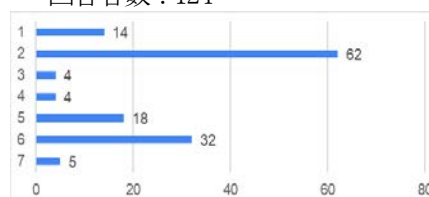
普通科、普通科系専門学科

回答者数：215



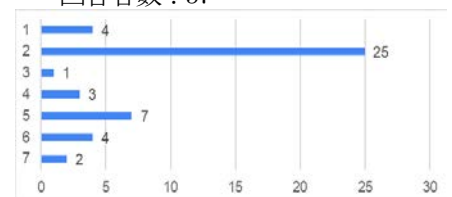
職業系専門学科

回答者数：124



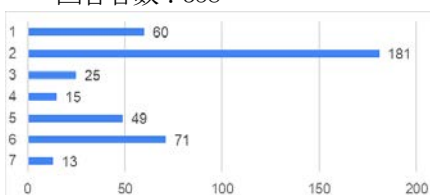
総合学科

回答者数：37



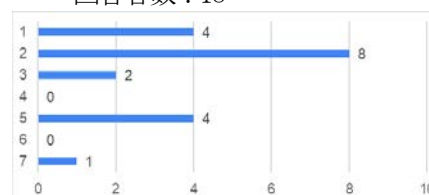
全日制

回答者数：358



定時制・通信制

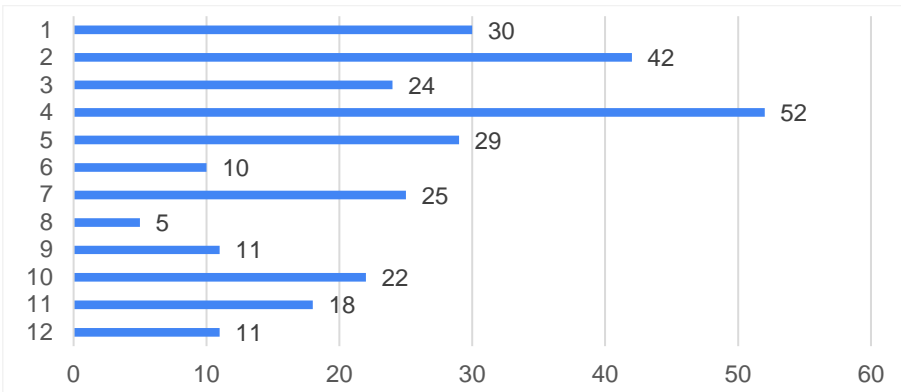
回答者数：18



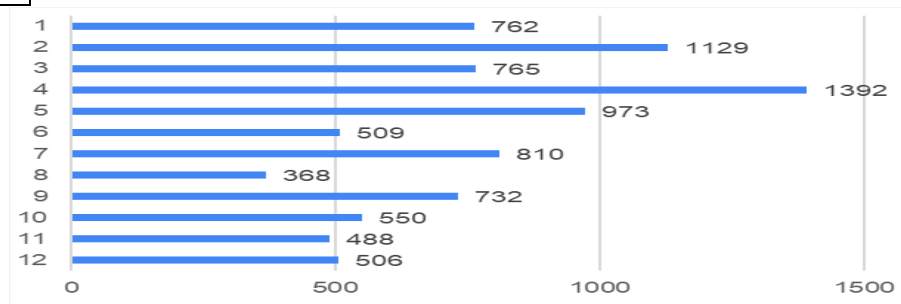
質問 11 次のうち、これからの時代に向けて高校時代に身につけておくことが必要だと思うものはどれですか。
(3つまで選べます)

- 1 各教科の学習内容
- 2 ものごとに進んで取り組む力
- 3 違う年齢や異なる文化の人と積極的に関わる力
- 4 目標を立てて実行する力
- 5 失敗してもくじけずに取り組み続ける力
- 6 現状から課題を見つけ出す力
- 7 計画する力
- 8 新たな価値を創り出す力
- 9 わかりやすく伝える力
- 10 相手の意見を丁寧に聴く力
- 11 規則や約束を守る力
- 12 AI (人工知能) や VR (仮想現実) など先端技術を使いこなす力

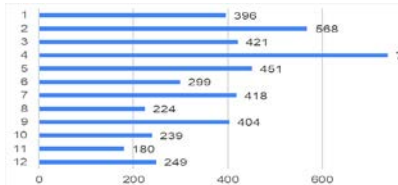
○紀南地域の高校生



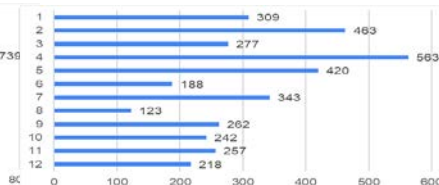
全体 回答者数 : 3,373



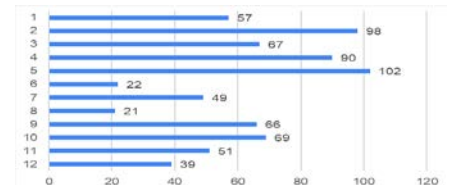
普通科、普通科系専門学科
回答者数 : 1,695



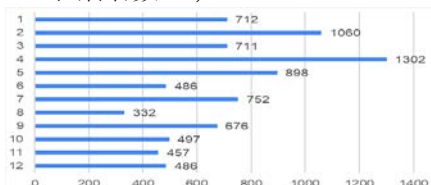
職業系専門学科
回答者数 : 1,395



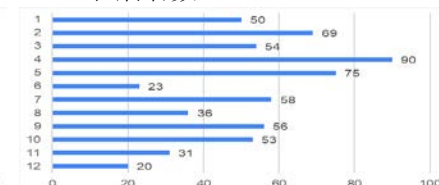
総合学科
回答者数 : 283



全日制
回答者数 : 3,146



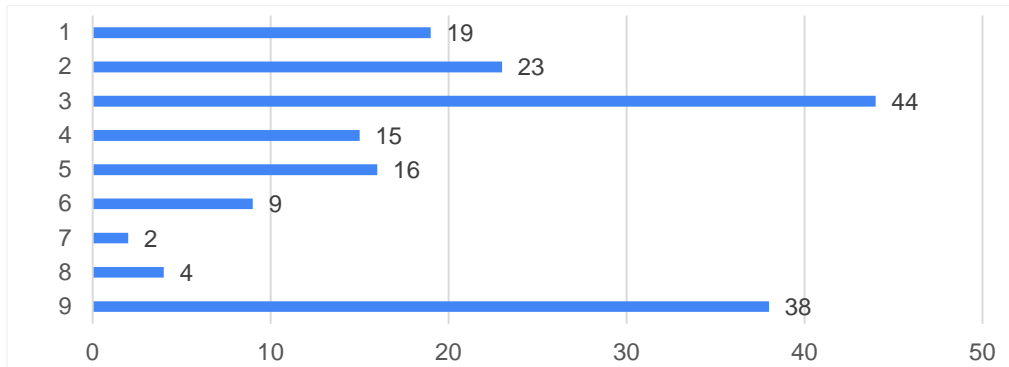
定時制・通信制
回答者数 : 227



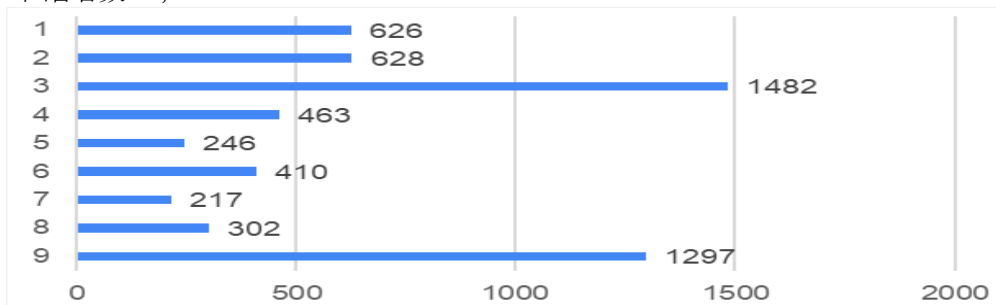
質問 14 今後、どのような形の授業を受けたいですか。(2つまで選べます)

- 1 先生が一斉に説明する授業
- 2 自分で調べることを取り入れた授業
- 3 グループでの活動を取り入れた授業
- 4 テーマに沿って自由に議論する授業
- 5 いくつかの教科で学んだことを使って、課題の解決策を考える授業
- 6 学校外のいろいろな場所で調査をしたり、様々な立場の人にとって話を聞いたりする授業
- 7 考えたり調べたりしたことを、工夫して発表する授業
- 8 ほかの高校の生徒と一緒に、またはほかの高校の先生から、オンラインで受ける授業
- 9 タブレットなどを使って、理解できるまで繰り返し学習ができる授業

○紀南地域の高校生



全体 回答者数：3,373



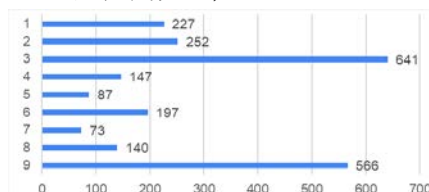
普通科、普通科系専門学科

回答者数：1,695



職業系専門学科

回答者数：1,395



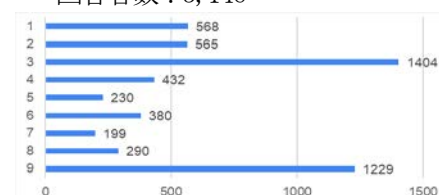
総合学科

回答者数：283



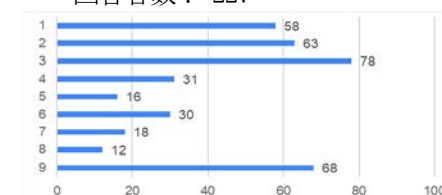
全日制

回答者数：3,146



定時制・通信制

回答者数：227



協議のまとめ

紀南高校は、平成19年に高校では三重県初、全国でも2番目（3校目）にコミュニティ・スクールに指定され、紀南地域の方々の支援を得ながら、年間を通じたインターンシップを教育課程に導入するとともに、特色ある授業として「東紀州学」や「地域産業とみかん」を実施するなど地域と連携した取組を進めてきました。また、福祉関連の教育課程も設置し介護士へと進む人材の育成を行うとともに、看護学校等への進学を目指す生徒への学習指導に力を入れるなど、地域医療や福祉に貢献できる人材の育成にも一定数の成果を出してきました。さらに、地域の様々な職業の方と将来について語り合う対話集会を実施し、キャリア教育の推進を図るとともに、地域で生徒が貢献するボランティア活動や小中学校との連携を通じて、地域における高校生の活躍の場を広げてきました。これらの取組については、御浜町・紀宝町全戸に配付される広報誌とともに、コミュニティ通信「紀南の風」として年2～3回配付するとともに、地域の新聞社やケーブルテレビにも常に学校の話題を提供し、ニュースに取り上げてもらうなどして地域に積極的に情報発信しています。

そうした成果として、地域の方々からも紀南高校はよく頑張っているといった評価の声を聞くことも多く、特色ある取組に参加したいと希望して紀南高校を選択する中学生も一定数いることから、ある程度の入学者数を確保してきましたが、少子化が進行する中で、定員を超えるまでの入学者の増加にはつながっていない状況です。熊野市・南牟婁郡の中学生は、地元を離れる一定数を除けば、多くは古くからの伝統を持つ木本高校を目指す傾向があると考えられます。

紀南高校は現在1学年2学級規模の学校となり3年目を迎えました。この間、教員定数が10名ほど減り、授業、校務分掌、部活動等の業務に困難が生じています。生徒の進路のニーズに応じた教育課程の実施に向け、単位制高校として多様な選択科目を設定していましたが、担当する教員が限られる状況もあり科目数を削減するなど対応をしています。「地域産業とみかん」のように特色ある設定科目では、体験活動の良さがうまく伝えられなかったこと、他にも多数ある選択科目が自分の進路に結び付けた選択には至らなかったこと、全体の生徒数も減少したことなどが影響し、選択生徒が激減するなど今後の開講が危ぶまれる状態となっています。部活動についても団体チームが組めない状況が生じ、削減などしています。今後少子化がさらに進む中で、入学者定員の減があれば現在の教育内容の維持が難しく、大幅な教育課程の改編や取組の削減を行わざるをえなくなり、特色ある教育活動の縮小は必至となります。

紀南地域の将来の生徒数については、最近の出生数を考えても厳しい状況といえます。高校だけでなく地域の子どもの学びをどうするのか、地域・市町はどう支援するのかを考えることが重要です。その上で、紀南地域全体の学校規模と配置について、今後のあり方を協議・検討する必要があると考えます。